

平成 26 年度指定
文部科学省スーパーグローバルハイスクール



平成 3 0 年度
卒業研究論文・国際 FW 報告書
第 7 回高校生国際 ESD シンポジウム発表資料集



平成 3 1 年 3 月
筑波大学附属坂戸高等学校

はじめに

筑波大学附属坂戸高等学校は、1994 年に全国で初の総合学科を開設した。その後、生徒自身の科目選択の支援と、課題研究（校内科目名：卒業研究）を中心としたカリキュラム開発を時代に合わせて行ってきた。2014 年度に、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されてからは、課題研究テーマにグローバルな課題を設定する生徒が増加してきた。

2018 年は、本校が交流の多いインドネシアと日本が国交を樹立して 60 年の節目の年であった。昨年度からジャカルタで開催している「インドネシア日本高校生 SDG s ミーティング@ジャカルタ」を、「日本インドネシア国交樹立 60 周年記念事業」に認定いただき、日本とインドネシアの高校生が、SDGs を達成するために国を越えて真剣に語り合う場を作ることができた。

また、本年度も、平成 30 年 11 月 8 日に、第 7 回高校生国際 ESD シンポジウム・第 4 回全国 SGH 校生徒成果発表会が筑波大学東京キャンパスにて開催されたが、昨年度と同様、メインテーマに SGD s を掲げ、「SDGs × High School Students - What will YOU do to make tomorrow' s world better? -」として、SDG s の目標の達成に向けた、海外の高校生と協働した国際フィールドワークの成果や、各校の課題研究の成果が発表された。

高校生国際 ESD シンポジウム・全国 SGH 校生徒成果発表会、海外のシンポジウム等での生徒たちの活躍はすばらしく、また、SGH 事業を展開する中で、生徒たちの学習レベルの向上も目を見張るものがあった。成果として、英語やインドネシア語の学習が盛んになり、英検 2 級合格者数が飛躍的に増加し、1 級および準 1 級合格者もでたことが特筆される。またインドネシア、フィリピン、米国など各国で 1 年間の長期留学をする生徒もあり、学びの場が世界へと展開されている。

SGH に指定されてから 5 年、本年度が最終年度となる。本成果集には、生徒による国際フィールドワークの成果や卒業研究の成果、国際シンポジウムで発表等をまとめて掲載した。生徒たちの活発な実践活動の一端を知っていただければ幸いである。

筑波大学附属坂戸高等学校 SGH 推進委員会

目 次

はじめに

I 卒業研究論文	1
◇ムスリム用ガイドマップ作り —川越に焦点を当てて— 3年D組32番 藤野 美梨	
◇フィリピンで女性の社会進出を支えるものは何か? —ヤヤの存在とジェンダー政策— 3年D組42番 山口 慧那	
II 国際フィールドワーク活動報告書	66
◇Community Development by Promoting Local People' s Activities —The way to commit to the local area— 2年D組33番 福田 美月	
◇Create an Ownership Mentality for Forest Conservation 2年D組13番 齋藤 陽美	
◇Memorable Environmental Education by High School Students 2年D組23番 高田 伊知郎	
◇Community Development in Indonesia 2年D組25番 高柳 智也	
◇The Importance of Sustainable Industries in rural Indonesian 2年D組 7番 荻野 達	
◇Final Presentation @ Gunung Gede Pangrango National Park, Cibodas, West Java	
III 第7回高校生国際ESDシンポジウム発表資料	87
◇SGH International Fieldwork 2018(Oral presentation) Forest vocational High School, Ministry Of Environment and Forestry of Indonesia LAB School SMA Kornita, Bogor Agricultural University, Indonesia Senior High School at Sakado, University of Tsukuba, Japan	
◇The 4th All JAPAN SGH Schools' Meeting Poster Session Posters	
IV 2018年度スーパーグローバルハイスクール全国高校生フォーラム発表資料	98

「卒業研究」2018 年度(平成30年度)

ムスリム用ガイドマップ作り —川越に焦点を当てて—

筑波大学附属坂戸高等学校 総合科学科 23 期生

3 年D組 32 番 藤野 美梨

Abstract

Foreign visitors from Islamic countries to Japan are increasing. I have searched about their problems during the stay in Japan and made it a goal to provide a solution for it. It was revealed that there are things that Muslims can't eat but there are problems among food because of the lack of the religious consideration or correspondence for Muslims in Japan. Those kind of problems are voiced out by the Japan Tourism Agency as well. To solve these problems I made a pictogram sticker that could be put on a restaurant's menu and a personalized guide map for Muslims, which includes Muslim-friendly restaurants in Kawagoe. Based on my research, I found that Muslim-friendly guide map has a great potential for both Muslims and restaurants because the number of Muslims visiting the restaurants will increase and also the Muslims will feel more comfortable there.

Key words:

Muslim, Guide map, Tourism in Kawagoe, Halal food, Kawagoe guide map for Muslims

論文要旨

現在全世界に 16 億人以上のイスラム教徒（ムスリム）がいると言われている。そしてムスリムは世界で一番人口伸び率が激しい宗教となっている。そのため今後も人数は増え続け、2050 年までにイスラム教人口は2010 年から73%も増加するといわれている。（ピューリサーチ研究所）

私はそのムスリムに焦点をあて、彼らが日本で過ごす上で何が問題となっているのかを調べ、課題解決をゴールに研究を行ってきた。そして、私が今回メインにして活動してきた課題は飲食店の宗教への配慮や対応不足といった、食の問題である。その理由として、ムスリムは宗教上食べてはいけないものがあるが、日本の飲食店で自分が頼むものが実際に摂取していいものなのかの判断をするのが難しいという点があるからだ。

私が解決方法として作成したものは飲食店のメニューに貼ることができるピクトグラムのシールと、ムスリム用川越ガイドマップだ。実際に川越にある店舗を回り、ピクトグラム提示の協力を呼びかけ、自身が作成したガイドマップに掲載するという活動を行った。

そのガイドマップは実際にムスリムに見ていただき、アンケートを行ったことと、すでにある川越ガイドマップと比較することにより分析した。結果として、すでにあるものよりも画像が多く、わかりやすく使いやすいが、得られる情報がその分少ないため、すでにある観光ガイドブックと併用できるのであれば使いやすく、需要はあるのではないか、といった結果になった。

キーワード

1：イスラム教徒（以後ムスリム） 2：ガイドマップ 3：川越観光
4：宗教上食問題 5：ハラール（ムスリム教徒の中で許されたもの）

目次

ムスリム用ガイドマップ作り～川越に焦点を当てて～

1. 研究の背景

2. 研究の意義

3. 先行研究

4. 本研究で明らかにしたいこと

5. 研究方法

6. 活動内容

- － ガイドマップ作り準備
- － 川越店舗訪問
- － 川越訪問店舗情報
- － ガイドマップ作り
- － 自作ガイドマップ工夫点・他ガイドマップ比較相違点
- － 分析結果
- － アンケート結果

7. 結論

8. まとめ

9. 参考文献

ムスリム用ガイドマップ作り

1. 研究の背景

最近、グローバル化という言葉をよく耳にするようになり、実際に日本でも外国人を目にする機会は多くなった。それは、日本で暮らしている中で感じる事が出来るだろう。観光庁(2018)によると、2010 年から毎年訪日外国人旅行者は増加している。



更に、鶴岡(2017)によると以下のような概要があった。

「イスラム教徒は世界約 16 億人、日本国内には留学生、企業研修生を含め約 20 万人と言われている。このうち 6 割にあたる 10 億人以上がアジア地域に住んでいる。イスラム教徒の世界的な人口の伸びは世界人口の伸び 1.4 倍を上回り、2030 年には約 22 億人、2050 年には 1.7 倍の約 28 億人に増え世界人口の 4 分の 1 以上を占めることが予想される。中でも最大のイスラム人口を抱えるインドネシアでは人口の約 2 億 5 千万人の約 9 割をイスラム教徒が占めかつ平均年齢が 30 歳前後で市場が若く経済成長が期待できる。同国は親日国であり、中間層の所得上昇に伴って日本への来訪者数が今後増えることが予想され、HIS など大手旅行代理店も同国からの訪日客獲得に力を入れている。このような状況にもかかわらず、東京五輪を 4 年後に控え観光立国を目指す我が国

においては、イスラム教徒に対する食品インフラの整備は不十分であり、多様な食習慣への対応が求められている。国内のハラール食品市場規模は 1200 億と推定されており今後さらに拡大すると思われる。」

それは、もちろんムスリム圏の国からの訪日者も増えていることを表す。

そして、私の学校ではインドネシアとの協定校があり、よくインドネシアからの留学生を受け入れている。インドネシアはムスリム人口が 9 割と、ムスリム人口の多い国であり、留学生と交流する機会が増えた私は、ムスリムについての知識が増えた。そして、日本で暮らしていく上での問題として食の問題があげられることがわかった。

食の問題というのは、ムスリムには食べていいもの・いけないものがある、ということがあることから起こる、ハラールかハラールでないかの判断が難しいといった問題だ。食べていいものをハラールと呼び、食べてはいけないものをハラームと呼ぶ。そして、代表的なハラームなものには、豚とアルコールがあげられる。豚料理やビールなどはもちろん飲食できないが、原材料にアルコールが入っている場合も食べることができない。例えば醤油にもアルコールが入っているため、特別な生産方法でない限り使用できない。もちろん信仰度によって異なるが、豚由来の成分が含まれているだけでも食べることができないため、注意が必要となっている。

しかし、私が留学生と食事をしに行った際にメニューに原材料名の表示がなく、食べられるかどうかの判断に困ったという経験がある。

そのため、このようなムスリムにとって、日本を過ごしやすい場所にしたいと思うようになり、このテーマにした。

2. 研究の意義

前述の通り、グローバル化している世の中なのにもかかわらず、まだまだハラール対応が足りていないという現状がある。鶴岡（2017）によると、

「我が国において「ハラール」が注目されるようになったのは、「日・ASEAN 友好協力 40 周年」に合せて 2013 年 7 月から東南アジア 5 カ国（タイ、マレーシア、ベトナム、フィリピン、インドネシア）の観光ビザの発給要件が緩和され、インドネシア、マレーシアなどイスラム教徒の多い国々からの観光客が急増したことからである。観光庁では「ムスリムおもてなしガイド」を作成しホテル、レストラン等を対象に基本的な情報提供と対応指針を示している。一方、国内にはハラール認証機関が数十団体あり、認証基準、認証費用もまちまちで、百万を超える場合もあれば、その十分の一くらいもあり、統一されていない。」

とあり、やはりもちろん対応してきている企業は増えているが、対応に地域差があったり、企業によっても差があったりすることがわかる。そのため普段からハラール対応されているお店を目にする人は少ないのではないだろうか。実際、観光庁（2015）は「ムスリムおもてなしガイドブック」を発行（下図）し、ホームページに載せている。そこでは飲食店

などでのメニューにピクトグラムを載せることを推奨している。以下がその内容だ。
などでのメニューにピクトグラムを載せることを推奨している。以下がその内容だ。



食に対するニーズ

食べ物やその成分の表示が不十分であることに困っています

- 日本語メニューしかないことが多く、理解できません。また英語のメニューがあっても料理の名前しか書いていないことが多いため、食べられるものかどうかの判断ができません。(インドネシア人ムスリム)
- メニューの中でどれがノンボーク・ノンアルコールなのか表示されていないため、不便です。(インドネシア旅行会社)



食事が出来るお店が少ないことに困っています

- ムスリムが安心して利用できる飲食店を探すことが難しいです。ツアーで提供される食事以外は、食べられそうな材料のおにぎりや、自国から持参した食べ物を食べて過ごしています。(インドネシア人ムスリム)
- ムスリム向けの飲食店が非常に少なく不便です。一般の飲食店のメニューは食べられるものかどうか分からないため、不安に感じます。(インドネシア人ムスリム)
- 宿泊施設において、ムスリム向けの朝食が提供されていることが少ないため不便です。また、食事場所を分ける等の配慮が必要です。(マレーシア旅行会社)
- テマパーク等長時間過ごす場所にムスリム向けのサービスがある飲食店がないことがとても不便です。そのため、別途ムスリム旅行者向けの弁当を用意して対応することがあります。(マレーシア旅行会社)
- 宿泊施設や飲食店の選択肢が限られています。もっと数を増やしてほしいと思います。(インドネシア旅行会社)
- 日本料理が食べたいのですが、ムスリムが食べられる日本料理を提供できる飲食店がなかなかないことが残念です。(マレーシア人ムスリム)



更に、今のムスリムの現状を総務省が以下のようにまとめていた。

調査を開始しました！

MIC Ministry of Internal Affairs and Communications

平成29年8月9日

宗教的配慮を要する外国人の受入環境整備等に関する調査 —ムスリムを中心として—

- 平成28年の訪日外国人旅行者数は2,404万人で、3年前の2.3倍に増加している。この間、イスラーム圏からの旅行者も増えており、インドネシア人は2倍、マレーシア人は2.2倍となっている。
また、中部管区行政評価局管内の6県(注)の外国人延べ宿泊者数をみると、平成28年は564万人(3年前の2.2倍)、うち、インドネシア人は66,740人(同1.4倍)、マレーシア人は72,150人(同2.3倍)に増加している。今後も、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催等を契機に更なる増加が予想される。
(注) 愛知県、富山県、石川県、岐阜県、静岡県及び三重県
- ムスリム(イスラーム教徒)には、豚肉やアルコールを摂取しない、毎日礼拝を行うなどの戒律や習慣があり、また、他の宗教の信徒にも食の禁忌等の戒律や習慣が存在する。
一部の行政機関等では、これらに留意したガイドブックの作成等の対応を進めつつあるものの、ウェブサイト等による情報提供の充実や、礼拝場所の設置拡大等、受入環境の整備について更に促進する余地があるとの意見がある。
- また、宗教的配慮を要する外国人は、企業(社員)、大学(留学生)、小・中学校(児童・生徒)等にも存在するが、これらの者に対する食事、礼拝、医療、教育等に関する配慮に苦慮しているとの意見もある。
- 以上の状況を踏まえ、当局では、本年8月から11月までの間、管内における宗教的配慮を要する外国人旅行者の受入環境の整備状況や、在留外国人への宗教的配慮の実施状況を調査し、今後、行政機関等が検討すべき課題を明らかにする。

- 全国的に、訪日外国人旅行者及び在留外国人が増加。ムスリムが多いインドネシア等も増加
管内6県においても同様の傾向

◇ 訪日外国人旅行者数

全国 ○平成28年の訪日外国人旅行者数は、25年の2.3倍(H25:1,036万人→H28:2,404万人)
・国別では、インドネシア 27万人(同2.0倍)
マレーシア 39万人(同2.2倍)

6県 ○平成28年の外国人延べ宿泊者数は、25年の2.2倍(H25:251万人→H28:564万人)
・インドネシア 66,740人(25年の1.4倍)
愛知県9位、静岡県10位、岐阜県11位
・マレーシア 72,150人(25年の2.3倍)
岐阜県8位、静岡県9位、愛知県10位

◇ 在留外国人数

全国 ○平成28年の在留外国人数は、18年の1.1倍
(H18:208万人→H28:238万人)
・国別では、インドネシア 42,850人(同1.7倍)
パキスタン 13,752人(同1.5倍)

6県 ○平成28年の在留外国人数は、ほぼ横ばい
(H18:436,217人→H28:425,227人)
国別にみると、
・インドネシア 10,640人(同 1.7倍)
愛知県1位、静岡県5位
・パキスタン 2,814人(同 1.8倍)
愛知県2位、富山県9位、静岡県10位

- ムスリム、有識者、関係団体等から、宗教的配慮について次のような意見・要望あり
「ウェブサイトやSNSによる、飲食店や礼拝所などの情報を知りたい。」「空港以外の施設でも受入環境が整備されていると助かる。」「多言語表示やピクトグラムが普及してほしい。」「児童・生徒の信仰について理解してほしい。」

【主な調査項目】

① 旅行者への配慮	☐ 県・市町村のウェブサイトによる情報提供 (宿泊、飲食、礼拝施設、医療機関) ☐ 空港だけでなく、主要駅等における礼拝施設の整備状況 ☐ 多言語やピクトグラムによる飲食店のメニュー表示
② 企業における環境整備	☐ ハラル ^(注2) 食の提供 ☐ 礼拝への配慮
③ 大学における環境整備	
④ 児童・生徒への配慮	☐ 給食(食事)、断食月、服装、行事参加への理解 ☐ 相談対応、啓発

- (注) 1 法務省の在留(登録)外国人統計について、2016年12月時点は在留外国人統計、2006年時点は登録外国人統計を利用した。
2 ハラルとは、イスラームにおいて「許可されたもの」を指す。食事については、豚肉やアルコールなどを食べてはいけないとされている。
3 ムスリムには、上記の食事の禁忌のほか、1日に5回の礼拝の実施、年に一度の断食月、親族以外の異性との接触回避、偶像崇拝の禁止などの決まりがある。
4 ただし、国や地域により戒律の水準には差異があり、また個人によってもその解釈や実践の姿勢が異なるため、本調査においてもこの点に留意する。

〈参考〉

表1 宗教的配慮を要する外国人

区分	信者数の人口比率
ムスリム	インドネシア (87%) マレーシア (61%) パキスタン (96%) トルコ (99%) バングラデシュ (90%)
ヒンドゥー教徒	ネパール (81%) インド (80%)
ユダヤ教徒	イスラエル (75%)

出典：外務省HP
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>
 JETROのHP
https://www.jetro.go.jp/world/asia/pk/basic_01.html

【調査対象(予定)】

- ・ 中部運輸局
- ・ 県、市町村、教育委員会
- ・ 大学、事業者等

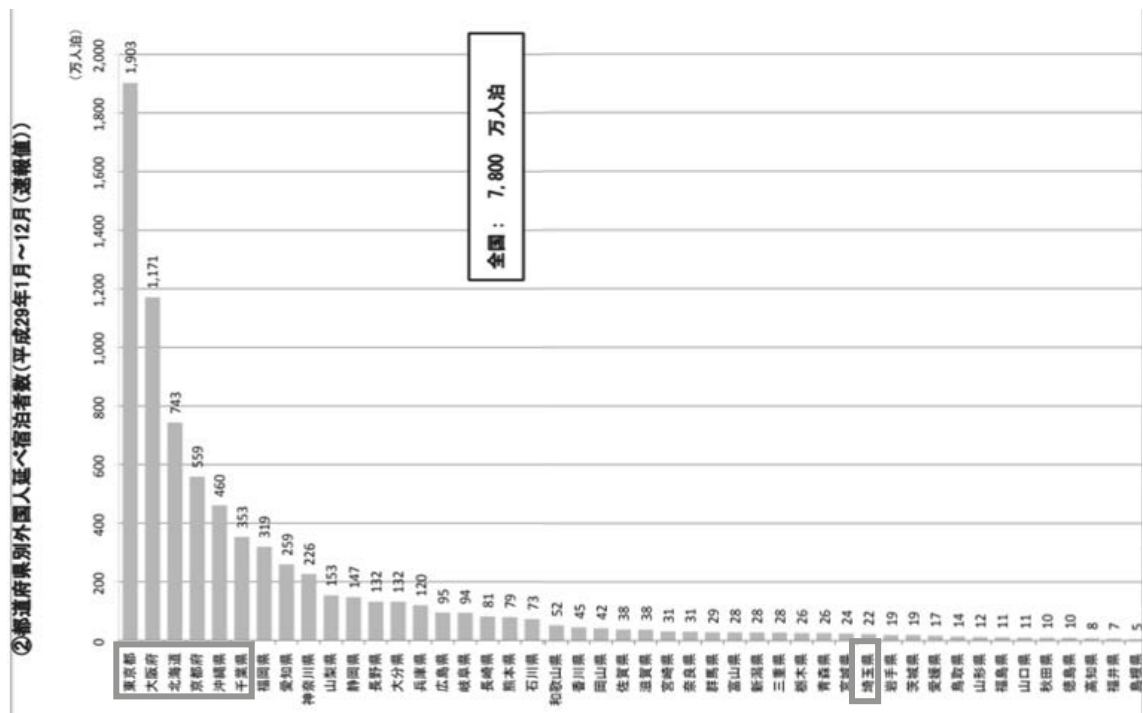
【調査期間(予定)】

平成29年8月～11月

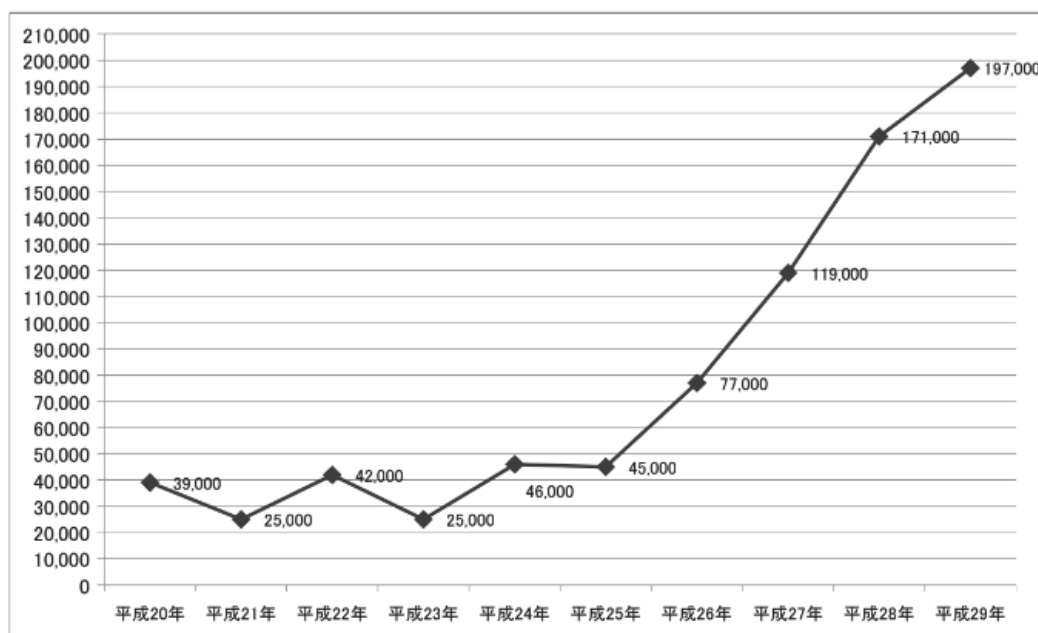
これらのホームページからもわかるようにムスリム圏からの訪日者が増えたことや、ピクトグラムによる飲食店のメニュー表示を推していることや、飲食店や礼拝所などの情報を知りたいというニーズがあることからピクトグラムを普及したのちにガイドブックに載せるという私の研究には意義があると考えます。

では、なぜ川越なのか。それは、川越には小江戸という町があり、日本らしさがあって観光名所としてふさわしいと思ったからだ。しかし、観光庁(2018)の平成29年度県別宿泊者ランキングを見てみると、埼玉県は47都道府県中35位と順位が低いことがわかり、まだまだ伸び代があると考え、このことも動機の一つとなった。そして、現にムスリム用のガイドマップを発行しているハラルメディアジャパン株式会社はこのランキングでの上位6位までの、東京、大阪、北海道、京都、沖縄、千葉までのガイドマップしか発行していない。もちろん統計をもとに、外国人宿泊者数ランキングの順位の高い順にガイドマップを作っていくことは需要を考えると大切なことである。しかし、訪日外国人数が少ないところのガイドマップを作ることによってその県の訪日外国人数が増えるのではないかと考えた。実際、埼玉県としての数には表れていないが川越では外国人をよく目にするうえ、埼玉県産業労働部観光課の資料によると埼玉県に訪れる外国人の内34.5%は

川越市にきている（県内2位）。もう一つの問題として、2018年現在、川越にはハラル認証を受けたレストランが一つも存在しない。そこで、対応が必要だと感じた。さらに、「川越市外国人入込観光客数の推移」によると平成25年から毎年人口が増加していることがわかるため、需要は増えつつあり、観光名所としての内容はいいが口コミや認知度が足りていないだけなのではないかと推測する。そのため、川越に焦点をあてるという点においても意義があると考える。



川越市外国人入込観光客数の推移



さらに、川越商工会議所の方へのインタビューで言われていた、「川越への外国人は確実に

増えています。東京オリンピックのゴルフ競技の開催都市でもある川越は、外国人の旅行先としても人気のようです。」との意見からも、今後も外国人観光客が増えていくことは予測できる。そして、川越で唯一のハラール対応を始めたと言われる老舗「幸すし」を経営する長島貴子氏によると、「川越は国内に住む日本人にとって日帰り観光地であり、川越観光を予定している人が『別の天気のいい日にいけばいい』など、諦めがちであったり、予定を変えやすかったりするのに対し、外国人観光客であれば天気の状態がどうであれ予定通りに行動する」といったことが述べられており、インバウンド促進のためにも外国人に焦点を当てることは需要があるということがわかった。

3. 先行研究

(1) 鶴岡公幸 (2017)『我が国におけるハラール食品市場の現状と課題』(神田外国語大学 紀要)

前にも私の研究の現状としての裏付けに使用したが、鶴岡 (2017) によると、ムスリム圏からの留学生は、そうでない留学生に比べて学業が終わると就職することなく帰国してしまう傾向が強いこと。それは食の問題が大きな要因の一つであること。日本社会におけるハラール食品の認知度を高め、食を通してイスラム教徒と共存するべきであること。彼らは日本における食のインバウンド促進のためにも不可欠であること、などが挙げられていた。

(2) 茂野綾美 (2011)『日系企業によるハラール市場開拓に向けて』(株式会社野村総合研究所 事業戦略コンサルティング部 コンサルタント NRI パブリックマネジメントレビュー)

茂野 (2011) によるとハラール市場への注目は高まっているが日本の、ムスリムへの制度や体制、取り組み状況は、他国と比較して遅れており課題も多いこと。日本国内におけるハラールの認知度を上げ製品開発を加速させることが重要であること。ハラール食品市場についてのことがあげられていた。

これらの二つの論文が言っていることは確かで、本研究の裏付けともなるが、「ハラール食品の認知度を上げる」という共通する要点に、ハラール認証商品を増やすというニュアンスがあると感じる。これはとても大切なことだが、私の焦点をあてる川越には小さなお店が多く、大きな企業とは違いコストをかける余裕がないところも多い。そして、ハラール認証を受けるのにはたくさんの行程が必要で、時間がかかってしまう。それではハラール認証を受けることはできないとはなから諦めてしまうお店も出てくるかもしれない。実際、ハラール認証取得は難しいことではあるが、誰かが、そのようなお店でもムスリムの人が食べられるものを提供できる場所があることを、明らかにすること (情報提供) が大切だと私は考える。お店側はハラール認証の取得は難しくても、対応はできるのだとい

うことを知り、小さなことから始めさせることが重要だと考える。

4. 本研究で明らかにしたいこと

本研究では、実際のムスリムの声（ニーズ）を元に需要のあるムスリム向けガイドマップを作ることによって、ムスリムが日本で快適に過ごせるような環境づくりの手助けになるのかを明らかにしたい。そして、まずこのガイドマップを作るにあたって活用していくムスリム向けピクトグラムの普及方法は何があるか、どうやったら需要のあるガイドマップを作成できるかを明らかにしたい。そののちに、ガイドマップを作ることによって関わった店舗に現状を知ってもらい、改善すべきことがあること、企業側にも経済的な利益があるというウィンウィンな状況に持っていくことが出来るということ、などのことが伝わるのか、それらのことによって企業側の意識は変わるのか、などのことを明らかにしたい。このことによって日本にある、「グローバル化している現状に対応が追い付いていない宗教問題がある」という社会問題に貢献したい。そして、川越に焦点を当ててガイドマップを作ることによって埼玉への訪日外国人者数が増えるかどうかにも明らかにしたい。もし実際に訪日外国人数が増える手助けとなれば地域活性化にもつながると考える。

5. 研究方法

まず、ムスリム用ガイドマップを作るにあたってすでにあるムスリム用のガイドマップ（ハラールメディアジャパン発行ムスリムフレンドリーマップ）、川越のガイドマップ（公益社団法人 小江戸川越観光協会発行時薫るまち小江戸川越散策マップ）（KOEDO KAWAGOE TOURIST ASSOCIATION 発行 GUIDE MAP to Koedo in KAWAGOE -A town with the traditional feel of Edo Tokyo-）などを参考にして載せる地域、項目を決める。載せるお店や観光地は外国人向けツアーサイトや、JTBなどの旅行会社などを参考にして場所を決める。基準としては、ガイドマップに載せることが現実的である、寿司屋や、和食を提供している定食屋など、すでに豚とアルコールを扱っていないであろうメニューがあり、既存の料理に手を加えずにムスリム対応ができる店舗にする。そして、必要な企業・店舗（飲食店、土産屋、礼拝所、観光地など）について調べ、載せていく。載せる店舗に関しては、川越にある飲食店を訪問しながら決定していく。訪問したうちの何件かには、自身が作成したピクトグラムを実際にメニューに掲示してもらえるかを、検討してもらう。

ピクトグラムというのは、私は本研究を始める前に「需要のあるムスリム向けピクトグラムを作成する」という研究をしていた際に作成したものだ。このピクトグラムを普及しつつ、自身のガイドマップに載せるなど、活用していく。ちなみに、ピクトグラムはA4のワードに横8列、縦5列×2種類を並べ、印刷をし、シールシートを作り、使いやすい形にする。そのピクトグラムシールシートはネットなどで売り出し、どの飲食店でも簡単にムスリムへの対応ができる状況にしていきたい。川越商工会議所でのインタビューでは外国人が増えることによる不安は何かあるかと質問をしたところ、「受入側の体制がまだ

まだ整っていない部分もあります。個々の商店の接客応対・言語スキル、案内表示の多言語化など、課題があります。」と言っており、自身のガイドマップとピクトグラムを活用していく活動には、商工会議所でも取り上げられている問題解決策のひとつになることがわかった。

最終的には川越をよりムスリム対応された街にし、日本にきたムスリムが、川越を訪問した際に、私のガイドマップを利用しながら滞在中に不便がないような過ごしやすい環境となる状況にしたい。

6. 活動内容

以上の現状や先行研究から、ガイドマップ作りを開始した。作成するにあたって準備、ピクトグラムシール作り、川越店舗訪問、という工程を経た。各段階の詳しい説明は後々行っていく。準備段階では川越商工会議所へのインタビューも行ったため段階ごとにそのインタビューで得た情報やアドバイスを参考にした。ちなみに、川越商工会議所とは、商工会議所法という法律に定められた認可法人で、地域の商工業の改善・発展を目的としている、地域の商工業者によって組織される自由会員制の経済団体である。全国に515の商工会議所があり、川越商工会議所は埼玉県で最初に設立（1900年）された商工会議所である。つまり、川越で活動をする際に協力していただく店舗との関わりがあるため、意見を参考にしていた。ガイドマップ作成後は他ガイドマップとの比較、分析と、日本に来たことがあるムスリム5人と日本に来たことはないが興味を持っている5人の計10人のムスリムにガイドマップを見てもらい、アンケートを行った。

ガイドマップ作り準備

まず、載せる情報を何にするか、を決めなければならない。この項目決めでは、2年生のころに訪問したハラルメディアジャパン株式会社さんからいただいたムスリムおもてなしマップを参考にした。（県別のものや、市別のものがあり、東京、大阪、京都などのものがある。）項目としては、マップ、飲食店、観光地、土産屋を載せることにしてガイドマップ作りを開始した。

観光地としては、川越商工会議所へのインタビューで推していきたいポイントをうかがった際に「近年注目されている観光という視点から見れば、明治・大正・昭和・平成のまちを感じることができることや、空襲などから逃れたため、神社仏閣をはじめとする歴史的建造物が多く残っていることなどが魅力としてあげられるでしょうか。」との回答があったため、寺や神社などを載せようと考えた。ムスリムの礼拝所であるモスクなども載せようと考えたが、調べたところ埼玉県内にはそのような場所が一つも見つからなかったため、そこは削ろうと考えた。一つ一つの項目の詳しい内容はガイドマップ作りの章で説明する。

次に、載せる項目は決まったため、次はさらに具体的な地域を決める。川越の中でもどこを載せるかだ。川越駅にある観光案内所に行き、川越のガイドマップ、観光客用のチラ

シ、ツアー広告などを集めた。やはりここで一番推していたのは江戸時代のような街並みが楽しめる場所である、小江戸という町で、私のターゲットであるムスリムの方にも気に入ってもらえる場所だと考え、ここを舞台にすると決めた。その中でも、一番メインの道のりにある蔵造りの町並みが楽しめる「蔵のまち一番街」周辺をマップに載せると決定した。「蔵のまち一番街」の中でも、連雀町～札の辻の町の間に絞った。

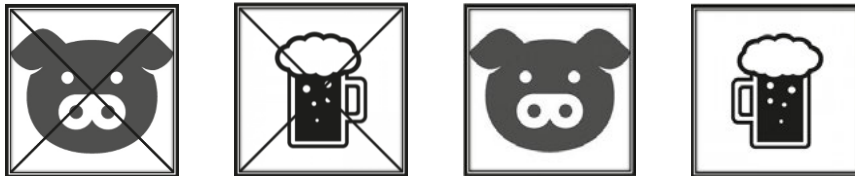
場所と項目が決まったので、ガイドマップに掲載するマップ作りを行おうと決めた。まずは、駅から、メインの場所である「蔵のまち一番街」への行き方がおおまかにわかる簡易マップを川越ガイドマップと Google マップを参考にパワーポイントで作成した。

次に項目ごとの載せる内容（具体的な店舗）を決める。飲食店は自身の一番メインの研究であるため時間をかけた。まず、決めた地域を Google マップで開き、飲食店を調べた。ここでも川越で集めたガイドマップを参考にし、載っている店舗を調べた。そして、評判やメニューなどを食べログなどの口コミサイトで確認し、ムスリムのニーズにあった店舗を書きだした。店の雰囲気はいいか、分かりやすい場所にあるか、提供されている料理は観光客にあったものか、ムスリム対応のメニューがあるかなど、様々な点を考慮したうえで、30店舗書きだした。その後、30店舗に許可をいただくための電話をかけた。大まかな活動内容を伝え、訪問してもいい日時を聞いた。結局、30店舗中協力してくれる店舗は半数の15店舗となった。そのうちの11店舗が飲食店となり、4店舗が甘味などを楽しめる場所となった。

川越店舗訪問

協力してくださる店舗は15店舗となり、訪問の許可が出たのは10店舗だった。残りの5店舗は電話の時点でピクトグラムの提示は難しいと断られてしまった。しかし、ガイドマップの掲載だけなら、といった許可がおりたため、この5店舗は電話越しで掲載情報の確認を行った。訪問の許可が出た10店舗では名刺をもらい、あらかじめ用意していたガイドマップ掲載予定の情報が正しいかの確認を店主と行った。作成したピクトグラムシールを実際に見てもらい、ピクトグラムの提示に協力していただけるか、どのように提示するか、英語メニューの有無、注意点などはあるかなどを話し合った。この際使用したピクトグラムシールは見やすく、貼りやすいサイズにした。しかし結局のところ、ピクトグラムの提示の協力をしてくださった店舗は「大黒屋食堂」、「風凜」、「開運亭」、「林屋」、「陶路子」の5店舗となった。その5店舗はどれも飲食店であり、スイーツのほうではすべてのメニューに豚やアルコールの使用がされていないことが多いためピクトグラムの必要性があまり伝わらなかったのかもしれないと考えた。ピクトグラムの提示許可がおりた5店舗の中でも様々な問題点があり、長期的にピクトグラムの提示ができる店舗は3店舗となった。まず、「大黒屋食堂」では毎日日替わりのメニューを提供しているため、毎日シールの付け替えをすることは困難であり、シールに限りがあるという点だ。しかし店主は快くピクトグラム提示の承諾を得て下さり、ガイドマップ完成後、訪問し、提示の呼びかけを再び行った後で、一定の期間、協力をしてくださるとのことだった。「林屋」ではムスリムからの訪問があり、重要

を感じた後に、貼っていただけるとのことだった。こちらの店舗に関しては、ピクトグラム提示により訪問客が増えるといったメリットが伝わらなかったといえるが、協力はしていただけたといった結果になった。他の3店舗ではどのお店でも、訪問をし、ピクトグラム提示の交渉をした時点で英語メニューに貼って頂けることになった。傾向としてすでに英語メニューが用意されていて、外国人観光客への意識が高い店舗では承諾が得やすいということが分かった。そして、掲示の協力を呼びかけたピクトグラムは以下の4種類となった。



まず、一つ目のピクトグラムはメニューに豚や豚由来の成分が入っていないことを表す。2つ目は、ドリンクメニューに貼り、そのメニューがアルコールでないことを表す。逆に、3つ目はメニューに豚または豚由来の成分が入っていることを表し、4つ目はそのメニューがアルコール商品であることを表す。この四種類になった理由は、店舗側への配慮をしたからである。各店舗で提供されているメニューは異なり、ノンポークやノンアルコールであるメニューとそうでないメニューの量は違うということだ。そのため、例えばノンポークメニューが多い店舗では、豚肉や豚由来の成分が入っているメニューに3つ目のピクトグラムを使用し、使用するピクトグラムシールの量を減らすことでより見た目とピクトグラム数

M E N U

we serve muslim-friendly menu






SWEET POTATO "MINI KAISEKI"
¥1,900



MITSUMAME WITH RED BEAN PASTE AND ICE CREAM ¥690



MACCHA WITH DESSERT
¥640

COFFEE ¥480
TEA ¥480
ICED COFFEE ¥530
ICED TEA ¥530
ORANGE JUICE ¥530
SWEET POTATOES BEER ¥740
(COEDO BEER 333ml ALC. 5%)



ICED TEA



SWEET POTATO CAKE ¥680



ICED MACCHA ¥530



ORANGE JUICE



SHAVED ICE ¥690

宇治金時 [Maccha + Bean Paste]
抹茶フラッペ [Maccha + Ice Cream]
いちごフラッペ [Strawberry + Ice Cream]
コーヒーフラッペ [Coffee + Ice Cream]
きあんみつ [Knori Anmitsu]



に配慮した形にした。以下の画像は実際に協力していただいた店舗の一つである「陶路子」の英語メニューである。

こちらの店舗ではメニュー全体で豚関係の成分が入っていないメニューとアルコールでないメニュー提供をしていて、左下のメニューだけアルコールであるということを伝えたピクトグラムの使用例となっている。

他店舗でのピクトグラム提示を断られた理由として、各店舗によって理由は様々だが、「一つの宗教だけを優先して対応することは出来ない」、「何か問題があった際に責任が取れない」などの例があげられた。一つ目に関しては、世界の中で1番多い宗教はキリスト教だが、2番目のムスリムの方が宗教上の食べられないものがあるなどの問題が明確であり、対応が重要となってくるといったことがうまく伝わらなかったと感じた。二つ目に関しては私の中でも判断に苦労した点ではあり、店舗側がそう感じてしまうのも無理はないと考える。しかし、日本に来た際に対応された店舗数のごくわずかであるハラール認証を受けたものだけを食べるということは極めて困難であり、ハラール認証は受けられないとしても、情報が開示されただけで、食べてもいいものであるという判断が可能となり、安心でき、すごしやすくなるといった意見をムスリムと関わっていく中で、実感してきた。そのため、ただ豚肉・豚由来の成分が入っていない、アルコールでない、といった情報を提示することには事実を述べればいだけなので、そういった対応はできるのではないかとということが今後より多くの店舗で伝わってほしい。

店舗訪問による「明らかにしたいこと」への問い

研究で明らかにしたいこととして、ガイドマップ作成において関わった店舗に現状を知ってもらい、改善すべき点があること、企業側にもメリットがあるということは伝わるかということをあげていたが、結果的に店舗訪問の際に協力いただいた店舗と、対応できるにもかかわらず断られてしまった店舗があったことから、全店舗に需要が伝わったわけではないが、伝わった店舗もあるといった二手に分かれた結果になったと言えた。全店舗で行動を起こせるまでの需要を伝えるためにはもっと長期的かつ複数回に及んで店舗を訪問する必要があるため、実現性を高めるために店舗数を絞る必要があったといえた。英語メニューがすでに用意しており、外国人観光客への対応を視野に入れている店舗に関してはそれらが無い店舗に比較してよりスムーズにムスリム対応をも行える。しかし、外国人を視野に入れない店舗では現状維持のままでいいといった結論に至ってしまうからなのではないかと考えた。本研究でのメインの目的はガイドブック作りであったため、店舗数が必要であり、断られてしまった店舗に深入りして説得するといった活動は時間の関係上行えなかったが、今後ムスリムが増えていく中でこういった店舗でも説得し、ムスリム対応の店舗を増やすことは重要であると言える。つまり、アプローチの仕方によっては「ガイドマップを作ることによって関わった店舗に現状を知ってもらい、改善すべき点があること、企業側にも経済的な利益があるというウィンウィンな状況に持っていくことが出来るということ、などのことが伝わる」状況にすることが出来、「企業側の意識は変わる」ということが明らかと

なった。

川越訪問店舗情報

この下の表にある15店舗がガイドマップに掲載する店舗の基本情報だ。候補であった30店舗も同じような情報のまとめ方をし、承諾を得られた際にことがスムーズにいくように工夫をしていた。ガイドマップに掲載する情報としては他に、川越での店舗訪問の際に店主と話し合った内容である英語のメニューの有無、住所や電話番号などのその他の基本情報、店舗の英語名、などがある。

店名	値段	提供するもの	営業時間	定休日
連雀町炭火焼き鳥 もとはし	3000~	焼き鳥	16:30~23:00	不定休
まことや	~999	焼きそば	10:00~17:00	月曜
名代焼きだんご 松山	~300	団子、かき氷	9:30~16:30	水曜
大黒屋食堂	1000~	和食定食	11:00~21:00	水曜
オハナ	1000~	卵料理	平 11:15~16:30、祝 11:00~16:30	不定休
林屋【カード可】	3000~	うなぎ	11:00~18:00	不定休
風凜【カード可】	2000~	お寿司	11:30~15:00-17:00~22:00	水曜
開運亭	1000~	郷土料理	11:00~19:30	月曜
川越パターテ	~999	ジェラート	10:00~18:00	火曜
セサミキッチン【カード可】	1000~	イタリアン	平 11:00~16:00-17:00~23:00 祝 11:00~23:00	月 etc
陶路子・陶舗やまわ	1000~	和食、甘味	平 10:00~17:00、祝 10:00~18:00	不定休
近江屋長兵衛商店	~999	豆腐料理	9:30~18:30	水曜
幸すし	2000~	寿司	平 11:30~14:00-17:00~21:00 祝 11:00~14:30-17:00~21:00	不定休
スターバックスコーヒー	500~	ドリンク	8:00~20:00	不定休
WAWA	1000~	和食、甘味	11:30~17:00	月、火

ガイドマップ作り

まず、おおまかなガイドマップの下書きを作成した後、PAGES という apple のアプリ(ソフト)を使って一番取り掛かりやすい表紙から作り始めた。表紙には川越での観光地などの画像を載せ、興味を引きやすい内容にした。さらに、川越のマスコットキャラクターをいれることによってガイドマップにやわらかさと川越らしさをプラスした。このマスコットキャラクターの画像は川越市産業観光部観光課観光企画担当の人に連絡をし、許可をいただいた。

次に、準備段階で作成していた簡易マップを裏表紙に載せた。その下には作成者である

私の情報を載せたボックスを用意した。

次に、許可をもらったスイーツを提供する4店舗と、川越のガイドマップで推している、私のお勧めでもあり、川越商工会議所の方へのインタビューで頂いた意見を参考にした3つの観光地を載せた。ガイドマップでは一目見てここに行きたいと思わせるように写真を使うのが効果的だと考えたのでおいしそうであり、メインである食べ物の画像を使用した。スターボックスでは提供する商品の画像の掲載の許可が得られず、外観の写真だけの許可しか得られなかったため、ロゴの使用をした。外観は日本らしさがあり素敵なのだが、こちらは表紙に持ってきた方が使用者の興味をひきやすく、中面では世界的に有名であるロゴの使用をすればある程度の提供商品は伝わると判断したためだ。

次に、中面にとりかかった。駅からこの中心地に着いた際に連雀町から歩き始めることになるため、連雀町に着いた際にそのままの方向でマップを眺められる配置にした。左二ページに10店舗が載せられるような枠を均等になるように作成し、もともと集めていた基本情報を載せた。順番としては、スタート地点となる連雀町に近い順となっている。基本情報を載せた後に主な提供メニューの画像を載せた。

自作ガイドマップ工夫点・他ガイドマップ比較相違点

ハラール認証された店舗ではなく、一般の店舗を掲載した点。観光庁が発行している「ムスリムおもてなしガイドブック」からムスリムの実際のニーズには、「日本食を楽しみたいがムスリムが食べられる日本食を提供できるお店が少なく残念だ」という意見があった。しかしそれは一般にムスリム対応している店舗を探そうと思えばハラール認証店を探しがちだが、まだまだ川越には認証取得を実現している店舗はほとんどなく、たとえネットで検索をしたとしても食べられるものを提供している店舗を見つけ出せないからだといえる。実際、私のガイドマップの舞台である小江戸では、「幸すし」が唯一のハラール対応店舗であり、考慮はしているがハラール認証は受けられていない。そのため、ガイドマップによって認証取得ができていなくても食べられるものを提供している店舗を掲載することによって、検索に引っかけられなかった店舗で食事ができるようになり、選択の幅が広がるという利点が生まれる。

画像を多く掲載した点。日本食を掲載する際に、一般のガイドマップのような店舗名や基本情報のみが掲載されているものでは、どのようなメニューが提供しているのかが海外の人には伝わらない。日本料理であるため、メニュー名が載っていても理解することは難しいうえに英訳ができなかったり、伝わらなかったりすることも多い。それに比べ、各店舗の代表メニューの画像を使用したことにより、一目見ただけでガイドマップ使用者に最も適した店舗を決めることができるだろう。他ガイドマップと比較し情報量が少なくなってしまうが、使用者のニーズを考えるとメニュー画像の方がより大切であると考ええる。

食にフォーカスしたガイドマップであることから、各店舗情報が他ガイドマップと比較して多いといえることも使用者が店舗を安心して利用しやすく、訪れやすくなる要因となるといえる。

マップを二種類作成し、掲載した点。裏面には近くの駅からメインの場所までの道のりがわかる簡易マップをのせ、中面にはもっと大きなメインの場所だけにフォーカスさせたマップをのせた。そして、掲載マップを縦長にし、簡易マップは裏面に持ってくることによりすべてを閉じたコンパクトな状態で見えるようにした。メインマップでは中面の一番右ページに持ってくることにより、どのページを開いていても店舗名とその場所が載っているマップを同時に見ることができるという構図上の見やすさの工夫もした。

このような構図にすることを実現できた理由としては、自身のガイドマップでは利益を求めておらず、収入面のことを考慮する必要がなく、広告などを載せる必要がなかったためだといえる。例えば、ハラルメディアジャパン株式会社が作成した同じサイズの他の地域でのマップでは、裏面のほとんどが広告で占められている。そのためそれらに比べて全てのページを効率よく利用できた。しかし、高校生の私だからこそ利益は必要ではなかったが、企業が行うとなると、このようなガイドマップを無償で増やすことは困難であるため、その場合では広告を活用していくことも大切であると言える。例に挙げたハラルメディアジャパン株式会社のマップでは広告としてムスリム関係の情報が載せられていた。このマップの使用者は限定されているため、ターゲット層が絞られていることからハラルに関する情報などの特定の情報や商品を押していくのに効果的であるため、企業間で作成する際はこの様に広告を活用していくことも大切であると言える。

メインマップの作成上の工夫点としては、マップ内の店舗を表す記号ではスイーツ系の店舗と食事系のレストランと観光地とで色分けをし、使用者が目的別に見つけやすいものとなるよう意識したことと、マップ上の道路を表す線の数を減らしてシンプルにしたことがある。減らす際には、使用時に迷ってしまわぬように横の道路は減らさず、掲載店舗へとたどり着くために最低限必要な道路はどれかを考慮した。

表紙ではターゲットが分かりやすく、パッと見た時に行きたくなるような画像を載せ、主に食べものについての情報が載っていることを示唆し、地域のオリジナルマスコットキャラクターを載せて親しみやすく、手に取りやすくなるような工夫を施した。

載せた情報は最低限の基本情報だけにし、読みやすくした。店名だけは日本語名も入れ、お店を探した際に看板などで理解できるようにした。

掲載店舗の工夫としては、川越に訪問するムスリムのニーズを考え、きっと彼らは「日本文化を楽しみたい」「川越での長期滞在はしない」ということが挙げられると仮定し、和食を提供する店舗を中心に掲載した。そして、小江戸の中で限定した連雀町～札の辻という範囲の中で掲載する店舗の位置が固まらず、等間隔になるよう設定した。

データで作成したことから、Web上に掲載することが可能であるため、より幅広い利用者に使っていただける媒体となった。

分析結果

作成していくうえで川越にすでにあるガイドマップなどを分析していると、観光地がまとめられているガイドマップは既に多く存在し、こちらは多言語対応されているものがある

った。そして、グルメ中心のガイドマップも存在したが、こちらは日本語のものだけしかなかったことから、自作のマップの焦点を強調するために情報を切り捨て、食事中心のガイドマップの作成でも需要があることがわかった。さらに、ムスリムの問題点として一番にあげられるのが食の問題であり、今回のメインテーマであるため、既存の日本語のグルメ中心ガイドマップよりも、ムスリムのニーズに合った需要のあるガイドマップ作成が出来ていることも分かった。

アンケート結果

実際に日本に来たことがあるムスリムの方に完成したガイドマップを見せ、アンケートを行った。いい点としては、見やすい、わかりやすい、目を引く、店舗情報が詳しく載せられていて助かる、マップに記号が載せられていて区別がつきやすく使いやすい、などの意見があった。これらは工夫点として挙げたものが評価されていたため、工夫点がうまく伝わったと言える。

改善点としては、礼拝ができる場所やそれを提供できる場所であるかの情報開示が足りなかった点があげられた。観光地などは既存の川越ガイドマップなどと併用することで川越を楽しむことはでき、土産屋などは小江戸を歩いている際に気になった店舗に足を運ぶなどできるため、食事にフォーカスしたガイドマップであっても問題はないと考えたが、食事と同じくらい大切である礼拝についての情報が載ったマップはなかったので、その情報を加えるべきだった。川越ではまだまだムスリム対応がされていなくてモスクはないが、「幸すし」では唯一礼拝ができる場所がある。検索したところ、レストラン以外でのそういった場所が川越に存在しなかったためモスクの提示を削ったが、川越について知らない使用者からすればただどこにあるかがわからず探すのが大変といった問題が起きてしまうので、川越にはモスクはないが、「幸すし」ではそのような場所があるといった情報を追加しようと考えた。さらに、もう一つの改善案として、ハラールマークがなかったということだ。今回の舞台ではハラール認証を受けている店舗は一つもないため、正式に“ハラール”であるとは言えない。しかし、ムスリムにとっては“ハラール”であることが彼らの安心できるものとなり、“ハラール”のロゴが最もわかりやすいいわばピクトグラムのようなものなのだ。そこで考えたことは、ハラール認証の取得は難しく、ロゴを提示することは可能なのかはまだまだ調査が必要だが、ガイドマップの表紙にはロゴを提示し、その下に

There are no officially halal restaurants in this area so the restaurants included in this guide map is not officially Halal but they also serve Muslim-friendly menu. といった、「正式に”ハラール”ではないが対応店舗が掲載されている」のような注意書きとともに載せることは可能なのではないかと考えた。つまり、今回のアンケートによって、「無い」ということの情報開示も大切で、礼拝ができる場所の追加をすることが課題であるということが分かった。

さらに、アドバイスとして、スマートフォンは大事な情報源であるため、このガイドマップをサイトに乗せるなど、Web 上で見られる形にしてほしいとの意見を複数いただいた。川

越では Wi-fi 設備も整っているのも、他ガイドマップとの併用をしやすくするためにもいい案だと考え、研究を続けるうえでそれを実現できるようにしたいと考えた。作成はパソコン上で行い、データとして残っているため、活用はできそうだ。

結果的には10人のムスリムから全員一致で分かりやすいとの意見と、このようなガイドマップが増えてほしいと考え、日本に訪れた際にぜひ利用したいとの意見をもらうことができたため、改善点を反映させればとても良いガイドマップの完成になるといえる。

7. 結論

ガイドマップ作りを開始した当初と比べて予定は変わり、グルメ中心のガイドマップとなったが、川越の複数店舗の協力により、アンケートで5段階評価中4.4という高評価な結果となるガイドマップを作成することができた。そして「無い」ことの情報提示と、「幸すし」ではムスリム対応がなされているので、そちらの店舗欄では礼拝が出来るという情報を付け足して、最終的な完成系にすることで、ムスリムのニーズにあったガイドマップになることがわかった。つまり、少しの情報を足すだけで需要のあるガイドマップを作成できたといえる。

ピクトグラムでは、シールにしたものを普及できたが、レストランではムスリムでない一般客についても考慮する必要があるあったり、手間がかかってしまったりする点から、全店舗でピクトグラムを提示するのは簡単ではないということがわかった。店舗によって使用シールを変えて工夫するというのを提案したが、ムスリムである使用者にとってハラールのロゴのような統一された安心できるものとはなりえない可能性があるため検討が必要だといえた。

8. まとめ

ムスリムの間で宗教上の食問題があることを知り、訪日ムスリムは増えているのにも関わらず、日本ではまだまだ対応できていないという現状があることがわかった。そして、川越を舞台にしたうえで、訪日外国人が増えているという統計があったり、オリンピック開催種目もあったりすることから今後も川越への外国人は増えるといえ、需要があることも分かった。さらに、日本人にとって川越は日帰り旅行地域であり、外国人観光客はインバウンド促進につながる貴重な存在であるため、川越でムスリム対応を広めるという活動にはムスリムにとっても、川越にとっても、双方にメリットがあるということが分かった。

そして最終的には需要のある食にフォーカスした川越ムスリムガイドマップを完成させることが出来、日本にある、「グローバル化している現状に対応が追いついていない宗教問題がある」という社会問題に貢献できたといえる。

KAWAGOE GUIDE MAP FOR MUSLIMS

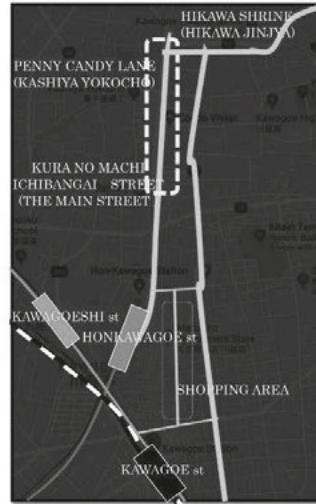
issued in Aug. 2018



LET'S LOOK FOR OUR
FAVORITE RESTAURANT!

SIMPLE MAP

This guide map is focused on the main street,
KURANOMACHI-ICHIBANGAI STREET.
(inside the dotted line square.)



This was produced by
Millie Fujino
Senior High School at Sakado,
University of Tsukuba



Sweets

①MATSUYAMA/松山 〒350-0066 7-1 tel.049- open.9:30~16:30 closed WED. ¥~500	
②PATATE/川越パターテ 〒350-0063 3-3 tel.049-227-6600 open.10:00~17:00 closed WED. ¥~999	
③chobeldohu/近江屋長兵衛商店 〒350-0063 6-10 tel.049-222-0174 open.9:30~18:30 closed THU. ¥ 70~	
④STARBUCKS COFFEE 〒350-0063 15-18 tel.049-227-6600 open.10:00~17:00 closed irregular ¥~500	



Restaurants

EM✓⇒Has English Menu CC✓⇒Able to use Credit Card

A. Sumbiyakiorimotokashi/ 炭火焼き鳥とはし 〒350-0066 7-2 tel.049-298-8777 open.16:30~23:00 closed irregular ¥3000~ EM ✓ CC ✓	
B. MACOTOYA /まことや 〒350-0066 7-2 tel.049-298-8777 open.16:30~23:00 closed irregular ¥3000~	
C. Daiokuyasokudou /大黒屋食堂 〒350-0065 5-2 tel.049-227-3290 open.11:00~21:00 closed WED, THU ¥1000~	
D. Kodo Ohana /小江戸オハナ 〒350-0065 2-2 tel.049-225-1826 open.11:15~16:30 closed. WED, THU ¥1000~ EM ✓ CC ✓	
E. Hayashiya /林屋 〒350-0065 2-4 tel.049-226-3058 open.11:00~18:00 closed irregular ¥3000~ EM ✓ CC ✓	

⚠ Please ask the staff if it is a Muslimfriendly Menu when ordering

F. Fu-rin/風凛 〒350-0065 6-4 tel.049-222-0231 open.11:30~15:00 17:00~22:00 closed WED. ¥2000~ EM ✓ CC ✓	
G. Kaimitei/開米亭 〒350-0063 2-11 tel.049-223-3335 open.11:00~23:00 closed while 16~17:00 on closed irregular ¥~1000 EM ✓	
H. Torokko(Truck) 胸路子 〒350-0063 7-1 tel.049-226-1065 open (week days) 10:00~17:00 (weekends/holidays) ~18:00 closed irregular ¥1000~ EM ✓	
I. Kousachi/幸すし Closed from 15:00~17:00 〒350-0063 1-13-7 tel.049-224-0333 open (week days) 11:30~22:00 (weekends/holidays) 11~21:00 closed irregular ¥2000~ EM ✓ ¥6000~	
J. WAWA/WAWA 〒350-0062 1-15-3 tel.049-214-1536 open.11:30~17:00 closed irregular ¥1000~	



9. 参考文献

観光庁（2015 年 08 月 26 日）

「飲食店、宿泊施設等向けに「ムスリムおもてなしガイドブックを作成しました！～ムスリム旅行者が安心して快適に滞在できる環境整備の促進を図ります～」

http://www.mlit.go.jp/kankocho/news03_000137.html 【閲覧日：2018/03/12】

日本政府観光局 「訪日外客統計の集計・発表」

https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data_info_listing/index.html 【閲覧日：2018/03/13】

総務省（2017 年 08 月 09 日）

「宗教的配慮を要する外国人の受入環境整備等に関する調査」

http://www.soumu.go.jp/main_content/000501800.pdf 【閲覧日：2018/10/13】

（公社）小江戸川越観光協会 「小江戸川越散策マップ」

<https://www.koedo.or.jp/map/> 【閲覧日：2018/10/17】

イスラーム圏からの訪日旅行者数は年々増加「ムスリム旅行者へのおもてなし」

<https://www.mirasapo.jp/features/policy/vol57/> 【閲覧日：2018/03/13】

埼玉県産業労働部観光課 「第2期 埼玉県観光づくり基本計画」

https://www.pref.saitama.lg.jp/a0806/documents/2kikeikaku_zentai.pdf

田中 章雄（2014）

「拡大するハラル市場と現状 拡大するハラル市場と現状～ ハラルマーケットの基礎～」
ハラル食専門セミナー&相談会（仙台）発表資料

<http://www.maff.go.jp/tohoku/kihon/yusyutu/kyougikai/pdf/tanaka-siryou.pdf>

ハラールメディアジャパン 「日本のハラール最新情報」

<http://www.halalmedia.jp/ja/> 【閲覧日：2018/10/19】

ハラールメディアジャパン 「日本を訪れるムスリム向けの観光情報」

<https://www.halalmedia.jp/ja/tourist-guide/> 【閲覧日：2018/10/19】

鶴岡 公幸「我が国におけるハラール食品市場の現状と課題」『神田外語大学紀要』29 号、
p417～429

茂野綾美「日系企業によるハラール市場開拓に向けて」『株式会社野村総合研究茂野綾美
NRI パブリックマネジメントレビュー』9号（2011） p7~11

Hiroshi Kojima 「Variations in Demographic Characteristics of Foreign “Muslim”
Population in Japan: A Preliminary Estimation」『The Japanese Journal of Population,』
(2006) Vol.4, No.1

「卒業研究」2018 年度(平成 30 年度)

フィリピンで女性の社会進出を支えるものは何か？
—ヤヤの存在とジェンダー政策—

筑波大学附属坂戸高等学校 総合科学科 23 期生

3 年 D 組 42 番山口慧那

「卒業研究」2018 年度(平成 30 年度)

フィリピンで女性の社会進出を支えるものは何か？ —ヤヤの存在とジェンダー政策—

論文要旨

本研究は、フィリピンにおける女性の社会進出を支える「ヤヤ」に焦点を当て、どのように「ヤヤ」が働く女性をサポートしているのかを明らかにすることを目的とする。

世界経済フォーラムが発表するジェンダー・ギャップ指数ランキングでフィリピンはアジアで唯一トップ 10 入りを果たした。しかしながら、働く女性を支える要因と詳細は明らかにされていない。したがって、本研究ではフィリピンの女性の社会進出を支える 1 つの要因である「ヤヤ」に焦点を絞り、どのように働く女性をサポートしているのか現地での聞き取り調査から考察した。

その結果、家内労働者である「ヤヤ」は主な仕事内容である子守りに加えて家事全般も担い、長時間働いていることがわかり、働く女性を多岐にわたってサポートしていることがわかった。また、ヤヤは住み込みで働く場合が多く、互いのプライベート空間を共有するため、働く女性と「ヤヤ」との間には、信頼関係が必要不可欠であることが判明した。

キーワード

- | | | |
|-----------|-----------|---------|
| 1：フィリピン | 2：女性の社会進出 | 3：家内労働者 |
| 4：ジェンダー平等 | 5：ヤヤ | |

筑波大学附属坂戸高等学校 総合科学科 23 期生

3 年 D 組 42 番山口慧那

Graduation Research Academic Year 2018

What supports women's empowerment in the Philippines? — Existence of Yaya and gender policies —

Abstract

This research focuses on “Yaya” who supports women's empowerment in the Philippines, as well as, investigates how “Yaya” supports working women. The Philippines ranked 10th only in Asia n gender gap ranking of World Economic Forum in 2017. However, factors and details supporting working women has not been clarified. Therefore, this research focuses on Yaya's rolls in households in the Philippines and analyzes how “Yaya” supporting working women by conducting fieldwork in the Philippines. As a result, it has been discovered that “Yaya” is responsible for housework as well as child raising and working all day. In addition, “Yaya” often works in living and share a mutual private space, so that it turns out that trust is necessary between the employer's women and “Yaya”. In conclusion, “Yaya” supports women's empowerment in the Philippines by working all day and responsible for child raising and housework. Also, the Philippines enacted gender policies early on and achieves gender equality by creating specific policies such as GAD budget.

Keywords

1: Philippines 2: Women's empowerment 3: Domestic worker
4: Gender equality 5: Yaya

Senior High School at Sakado, University of Tsukuba

3D No.42 Keina Yamaguchi

目次

第一章 研究背景・家事労働者「ヤヤ」	5
第一節 Gender Gap Report とフィリピン・日本	5
第二節 家内労働者と働く女性	6
第三節 研究の意義	9
第二章 先行研究レビュー	10
第一節 働く女性を支える「ヤヤ」と経済格差	10
第二節 小括	12
第三章 調査内容	13
第一節 研究方法	13
第二節 調査内容	13
2-1 インタビュー	13
2-2 アンケート	17
第三節 分析	19
第四節 小括	20
第四章 ジェンダー政策	20
第一節 フィリピンと日本のジェンダー政策	20
第二節 分析	21
第三節 小括	21
終章	23
結論、課題と展望	23
参考文献	24
謝辞	26

第一章

第一章 研究背景・家事労働者「ヤヤ」

本章では、Gender Gap Report を参考にフィリピン国内の女性の社会進出について論じ、またフィリピンにと日本における女性の正規雇用者の労働力率を比較することでなぜ家内労働者の中でも「ヤヤ」がフィリピンの女性の社会進出を支えていると仮定したのか提示する。したがって、本章の目的は、日本と比較することでフィリピンの女性の社会進出の状況を明らかにし、家内労働者と働く女性の関係性について紐解く。

第1節： Gender Gap Report とフィリピン・日本

近年、世界では SDGs の No.5 にあるように、「ジェンダー平等」に大きな注目が集まっている。そして、SDGs の No.5 では「ジェンダー平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る。」というターゲットを掲げ、世界に発信している。

日本のジェンダー平等の出発点といえは 1985 年に制定、翌年に施行された男女雇用均等法だろう。それから現在まで、女性のために向けた法律の制定や予算案の可決をはじめ国は様々な対策を講じてきた。また、現在の政治をリードしている安倍政権も女性の働き方について見直し、現状を変えるために活動している。特に、記憶に新しいのは一億総活躍社会の実現に向けたプランに含まれた「女性の活躍」だろう。これは、一億総活躍の中核であり、安倍政権の重要な政策の 1 つである（堀江 2017）¹。なお、ニッポン一億総活躍プラン(2016)²には、ポテンシャルを秘めている女性が我が国には数多くおり、一人ひとりの女性が自らの希望に応じて活躍できる社会づくりを加速することが重要であるとの記述があり、また、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の制定や女性活躍加速のための重点方針 2017 などに取り決められてきた。一方で、The Global Gender Gap Report(2017)³によると日本は 144 カ国中、世界で 114 位にランクインしているという現実があり、一昨年より 3 位順位を落とす結果となった。これは G7(先進 7 カ国)の中でも最下位の順位となっている。また、日本は教育・健康に関してはランクが高いものの、経済・政治参画においては他国と比べ非常に低いスコアを記録した。

一方、同じアジア圏に位置しているフィリピンがアジアで唯一トップ 10 にランクイン

¹堀江(2017), p.38.

²首相官邸(2016), p.13.

³ The Global Gender Gap Report とは世界経済フォーラムが毎年発表する男女間の格差の度合いを示す値であり、ランキングが上位なほど男女格差が小さいことを表す。この指標は、経済参画、教育、健康、政治参画の 4 つの構成からなる。

し、この結果は注目に値する。なぜなら、トップ3にランクインする国々は北欧が並び、高福祉である国が目立つのにもかかわらず、高福祉国ではないフィリピンがランクインしているからだ。加えて、フィリピンは発展途上国であり、他のトップ10に含まれている国々と比べると成長途中の国である。そのため、本研究では発展途上国であるフィリピンが先進国であるヨーロッパの国々などよりも順位が大幅に高いことに着眼点を置き、フィリピンの各スコアに注目しながらデータ分析を進めた。

フィリピン、日本両国の経済参画、教育、健康、政治参画の4つのスコアを確認すると、フィリピンは政治・経済参画の面において日本と比べ高いスコアを保持している。また、日本と比べ、特に政治参画の面においてフィリピンのスコアが高い。しかし、本研究では女性の社会進出(女性の社会での労働及び活躍)をテーマにしているため、今回は経済参画のデータに注目する。

両国の経済参画のデータを見ると、フィリピンが日本と比べ圧倒的にランクが高く、特に幹部・管理職での男女比でランク1、専門職・技術職での男女比ではランク9ととても高いランクを保持している。これは、日本と比べフィリピンでは女性が高い地位で働くことができる環境づくりや対策が整っていることが分析できる。しかし、フィリピンの女性の社会進出に関する論文やデータは少なく、女性の社会進出を支える重要なファクターの存在は明らかにできなかった。よって本研究では、どのような存在がこれらの結果を支えてきたのか調査した。

第2節：家内労働者と働く女性

本研究では、キーワードを「フィリピンの女性の社会進出」に設定し、論文調査を開始した。そして、調査を開始すると、女性の社会進出が活発な他国には見られない現象がフィリピンにはあるのではないかと分析できた。

堀内(2017)⁴によると、家庭生活を支える仕組みの1つとして、中流以上の家庭にとっては、家事労働者の存在が大きいと考えられる。また、フィリピンでは家庭内労働者が社会に深く根付いている(De Guzman 2016)⁵とあった。これらの2つの論文から、家庭内労働者が社会と深く関係していることが分析できる。また、働く女性にとって家庭生活を支える家庭内労働の存在は大きく、家庭生活の様々な面からサポートを受けていると分析し、「家庭内労働者」⁶もキーワードに加えた。

そして、調査を進めると、決定的な言葉が書かれているレポートが存在していた。それ

⁴堀内(2017), pp.61-62.

⁵ De Guzman (2014), p.3.

⁶ 家庭内労働者、家内労働者、あるいは家事労働者とは家事を仕事にする労働者のことであり、論文により名称は異なるがこれらは同義である。これらの労働者は料理、洗濯、洗濯、買い物、子守りなど仕事内容は家庭によって異なり、多岐にわたる。

は、女性の家内労働者(メイド)が、外で働く女性とその家庭を支えている(鈴木 2012)⁷と書かれたものだった。しかし、これはレポートとして書かれたものだったため、どのように家事労働者が働く女性を支えているのかは知ることができなかった。また、フィリピン国内には、家事を主な仕事とする「カサンバハイ」、子守りを主な仕事とする「ヤヤ」、介護を主な仕事とする「ケアギバー」の3種に家庭内労働者は分類されるが、どの職種が社会で働く女性を支えている存在になっているのか明らかにされていない。そのため、本研究では、論文・文献調査に加えて、現地でのフィールドワークを含めた調査をすることで家庭内労働者と女性の社会進出との関係に迫りたい。また、現地調査をすることで、家庭内労働者の他にもフィリピンの女性の社会進出を支える要因はないか調べていきたい。

ならびに、フィリピンにおける社会で働く女性とその家庭を家庭内労働者が支え、働く女性が家庭内労働者のサポートを背景に社会進出を実現させていると証明するためにフィリピン、及び日本の年齢別労働力を調査した。日本の女性の年齢別労働力を加えて調査したのは、フィリピンの女性の労働力と比較するためである。

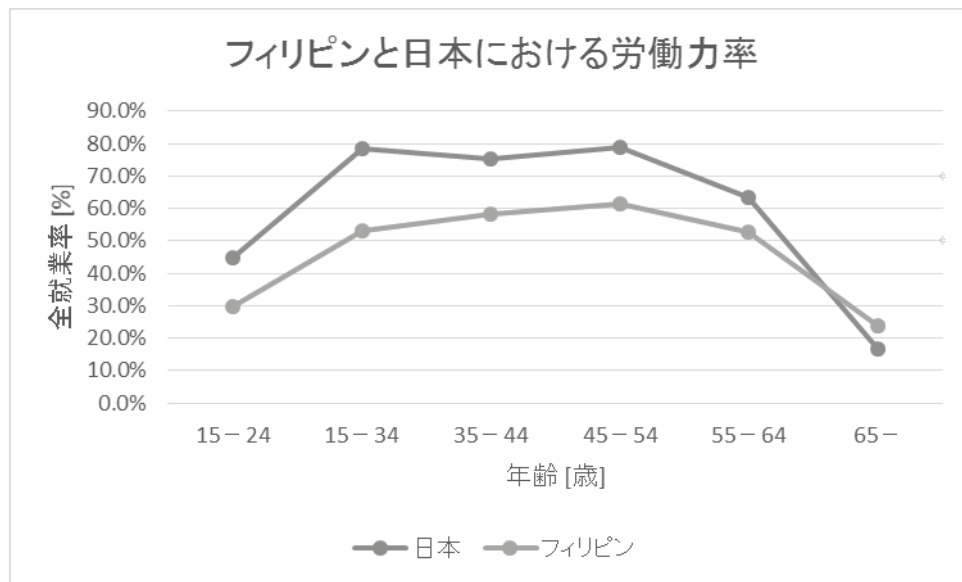


図1 フィリピンと日本における女性の年齢別労働力率
(出典：筆者が雇用形態別雇用者の推移と近年の特徴、2017 Annual Labor and Employment Status、2017 Annual LFS Estimates Tables をもとに作成)

図1のグラフを見ると、フィリピンと日本における労働力率⁸がわかる。また、これだけを見ると一見、日本の労働力率の方が高いと思われる。しかし、これには、落とし穴が存在する。それは、正規雇用者と非正規雇用者の間に存在する壁だ。2017年のデータでは正

⁷鈴木(2012), p.2.

⁸ 労働力率とは、労働力人口を生産年齢人口(総人口のうち15歳以上の人口)で割ったものである。

規雇用者 44.5%、非正規雇用者 55.5%となっており、非常に厳しい現実であることがわかる。加えて、日本は 2017 年の年齢別、男女別の正規雇用者の割合や同じく非正規雇用者の年齢別、男女別の割合は公表していないが 2015 年のデータによると、女性の正規雇用者のピークは 25-29 歳で迎え、それから右肩下がりになる。つまり、図 1 だけを見ると、フィリピンと比べ日本の労働力の方が高いように思われるが、実は半分以上の女性が非正規雇用者として働いているのだ。一方で、フィリピンには非正規雇用という雇用形態はなく、それに相当するものとしては「試用期間 (Probationary Period)」⁹における雇用が認められている。フィリピンは、試用期間における雇用者の割合は公表していないが、これに相当すると考えられる *underemployed*(不完全雇用者)¹⁰は男女全体で 16.1%存在している。そして、図 1 の両国のデータにそれぞれ、45.5%、83.9%を掛けたグラフが図 2 である。このグラフを見ると、フィリピンは日本と比べ圧倒的に正規雇用者の女性が多いことが読み取れる。また、日本は 35-44 歳の子育て世代になると労働力が下がる一方で、フィリピンは上昇傾向にあることが確認できる。そのため、フィリピンには子育て世代の女性たちが「子育て」によって自分自身の労働環境が阻害されていないと分析した。

よって、本研究では、多くの時間を働く母親の子供と過ごし、子守をする「ヤヤ」¹¹という家内労働者の女性を対象とし、研究していきたい。また他にも、フィリピンには家事を主な仕事とする「カサンバハイ」、介護を主な仕事とする「ケアワーカー」が存在するが、本研究では対象としない。もっとも、ヤヤに焦点を置く理由はフィリピンの女性の労働力と深く関係しているからだ。なお、本研究での「女性の社会進出」とは正規雇用者として働く状況を指し、非正規雇用者または、試用期間 (Probationary Period) における雇用は含めない。

⁹試用期間 (Probationary Period) とは、雇用者が労働者を正社員として採用する前、6 か月を越えない期間において、正社員としての適格性を判断するためのものである。なお、6 か月を超えた場合、雇用者は当該労働者を「正社員」として採用する義務がある。

¹⁰ *underemployed*(不完全雇用者)とは、現在の仕事でさらに追加の仕事をしたい、またはより長い勤務時間で新しい仕事をするという欲求を表明する雇用者のことである。

¹¹本研究で扱う家事労働者とは「ヤヤ」と呼ばれる女性たちであり、働く母親の子供を世話するのが主な仕事である。一方で、家事全般を任されているヤヤも存在するため、本研究では子守りはもちろん、子守りの他にも家事などを任されている家庭内労働者もヤヤの定義に含める。

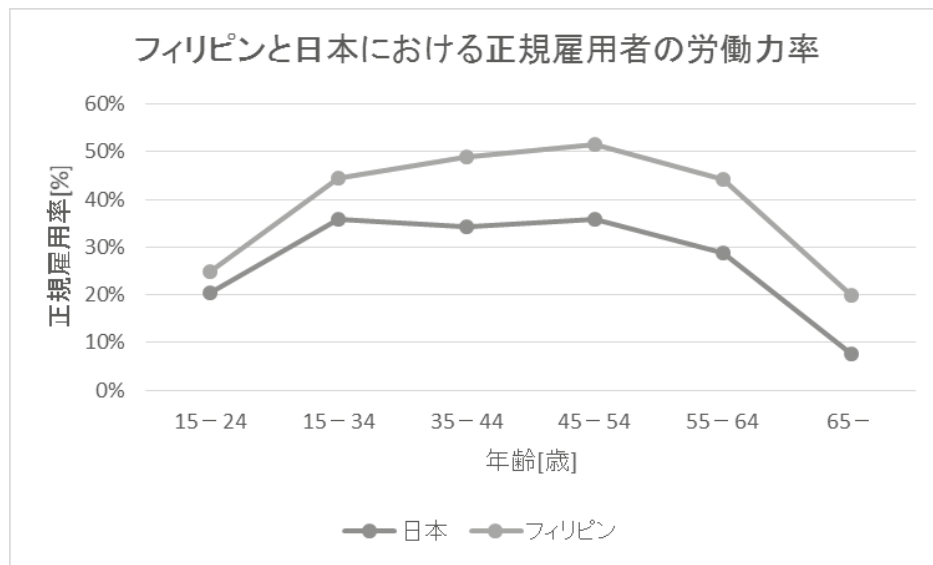


図2 フィリピンと日本における女性の正規雇用者の年齢別労働力率
(出典：筆者が雇用形態別雇用者の推移と近年の特徴、2017 Annual Labor and Employment Status、2017 Annual LFS Estimates Tables をもとに作成)

第3節：研究の意義

前述したように、現代では「ジェンダー平等」に高い注目が集まっている。しかし、社会には多くのジェンダーに関する問題が山積みであり、特に「女性の社会進出」については日本でも深刻な社会問題として挙げられる現状がある。そのため、本研究ではフィリピンの女性の社会進出を支える要因を明らかにし、また、「ヤヤ」はどのようにフィリピンの働く女性に影響しているのかを分析することで、今までにない新たな女性の社会進出を支える要因を提唱するという観点で貢献していきたい。

また、本研究が対象としているフィリピン国内の家庭内労働者についての研究は、いわゆる海外への出稼ぎ労働者についての研究と比べ、圧倒的に少ない。特に「ヤヤ」に関する研究は少なく、皆無といってよい(De Guzman 2016)¹²。よって本研究では、「ヤヤ」とはどのような仕事内容を遂行するのか、どのように働く女性たちを支えているのか、雇用形態や実態の解明にも貢献することができる。

加えて、補足になるが 2015 年末に外国人家事労働者が日本の一部地域で働くことが可能になった。現在、対象となるのは国家戦略特区で認められた東京都、神奈川県、大阪府にとなっている。また、2017 年には東京都が家事代行サービスを手掛ける事業者として人材派遣大手パソナなど 6 社を認定し、これからこのような動きがさらに増えていくことが予想される。

¹²De Guzman (2014), p.1.

小池都知事は交付式で「家庭における女性の負担を軽減する有効なツールで、(日本の金融業界などで働く)外国人の生活面のサポートにも役立つ事業だ」と話した(『産経ニュース』2017. 2. 23 Web)¹³。このように、日本でも家事労働者の関心が高まってきているため、フィリピンの家事労働者に迫る本研究は、日本社会の将来を考えていく上で参考になるだろうと考える。

第二章

先行研究レビュー

本章では、フィリピンの女性の社会進出に関するレポートやフィリピンにおける家事労働者、経済格差に関する論文をレビューすることによってフィリピンにおける女性の社会進出を考える上でどのようなことが重要になるのか、また、何が女性の社会進出をサポートする要因になっているのかを明らかにする。

第1節：働く女性を支える「ヤヤ」と経済格差

(1)堀内光子(2017)「韓国、日本及びフィリピンの男女平等度-ジェンダー格差指数からみた-考察-」、『アジア女性研究』26号、51～66頁

堀内(2017)によると、「フィリピンでは家庭生活を支える仕組みの1つとして、中流以上の家庭にとっては、家事労働者の存在が大きいと考えられる。」と述べている。つまり、中流以上の家庭のほとんどでは家事労働者が重宝され、家族をはじめ、働く母親をサポートしているのではないかと分析した。また、堀内(2017)は、

男女平等度の高いフィリピンでも、労働力率は20歳前半がピークで、その後年齢が上がるにつれて低下し、意識調査にあったように、家事・育児が就業を阻害する要因として指摘できる。

と主張している。この主張では、男女平等が高い一方、子育て世代になると労働力が低下していくと述べているが、本研究で最新のデータを見直したところ、この主張は間違っているのではないかと考えた。また、本研究では「ヤヤ」という家事労働者が家事や育児をサポートすることで労働力を維持することができるという仮定を展開していくため、堀内

¹³産経ニュース(2017.2.23),web.

(2017)の考えとは異なり家事や育児は男女平等の阻害にはならないのではないかと分析した。

(2)大村雪香(2017)「階層構造の不可視化と再生産—フィリピンにおけるヤヤ(子守)をめぐる親密性から—」

大村(2017)は、「ヤヤを雇う側の母親たちは、貧困層出身の女性たちを雇い家事労働と子供の面倒を見てもらうことで、社会進出やキャリアの達成ができていのである。」と述べている。つまり、ヤヤが女性の社会進出を支えているのだ。しかし、ヤヤの仕事内容や労働時間など詳しい情報が論文に含まれていなかったため、家内労働者とはどのような役割を担っているのか、どのようにして働く女性を支えているのかなど明確に理解することは難しいと考え、本研究で明らかにしていきたいと考えた。

また、大村(2017)は、「家事労働者と雇用者の間にある経済格差や階層格差が埋まるわけではなく、また家事労働者が階層を上昇するわけでもない。」と述べている。これは、家事労働者と雇用者の格差は明確であり、家事労働者の社会的な地位は生涯変わらないということの意味する。しかし、雇用者が逆に家事労働者の社会進出を後押ししている面もあるのではないかと分析した。なぜなら、Guzman(2014)によるとフィリピン家事労働者の40%は35歳未満とあり、将来性のある若い世代の女性たちが含まれるからだ。そのため、若い年齢のうちにフィリピンで家事労働者の「ヤヤ」として働くことで自分を成長させるための資金を稼ぐことができるのではないかと考えた。

(3)鈴木有理佳(2012)「名誉なランキングの背景にある格差」

鈴木(2012)は、次のように述べている。

フィリピン女性の活躍ぶりを高く評価する一方で、ひとつ見逃してはいけない事実があるのではないだろうか。それは女性が女性を支えているという構図である。すなわち、女性の家内労働者（メイド）が、外で働く女性とその家庭を支えているという実態だ。安価な家内労働者を雇える国だからこそ、女性が活躍できるともいえるだろう。

これは、家内労働者が働く女性を支えていると主張し、安価な価格で家内労働者を雇えるからこそ女性たちが活躍できると述べていると分析できる。しかし、大村(2017)と同様にこの記述に関して詳しい詳細は書かれていないため、本研究で明らかにしていきたい点だと考えた。

また、鈴木(2012)は次の点についても述べている。

女性労働者の場合、管理的・専門的・技術的職業に従事する労働者と未熟練労働者（このなかに家内労働者が含まれる）に「二極化」していることがわかる。また調査によれば、未熟練労働者のほとんどは一日あたりの法定最低賃金すら支払われていないことが多い。

このように、鈴木(2012)は完全に両者は二極化していると述べているが、前述したように

雇用者が家内労働者の社会進出を後押ししている部分もあるではないかと分析した。

(4) Maria Rosario T. de Guzman(2014)“Yaya: Philippine Domestic Care Workers, the Children They Care for, and the Children They Leave Behind”

De Guzman(2014)は、「フィリピンでは、家事労働者が深く組み込まれている。」と述べている。つまり、フィリピンにおいて家事労働者と人々は密接に関わり、家庭生活にも影響を与えていると分析できる。一方で、De Guzman(2014)は、「家事労働者はしばしば社会内で評価されず、法的保護や支援へのアクセスが限られている。」と主張している。これは、家事労働者が社会に深く関係しているのにもかかわらず、社会から遠ざかった場所に位置していることを意味しているのではないかと考え、家事労働者は社会から切り離されている一面もあると分析した。

第2節：小括

フィリピンでは家内労働者が女性の社会進出を支える一つの要因であり、その家内労働者は第1章より「ヤヤ」として分析できる。また、堀内(2017)が述べていたフィリピンの女性の労働力については本論の第一章の最新の結果で否定できるだろう。そして、鈴木(2012)や大村(2017)、De Guzman(2014)が述べていた経済格差の問題については現地でのフィールドワークで調査を行い、明かにする。

本研究では、題名にもあるようにフィリピンの女性の社会進出を支える1つの要因であると考えられる「ヤヤ」に焦点を当て、どのように働く女性をサポートしているのか現地での聞き取り調査から明らかにしていきたい。また、「ヤヤ」はどのように働く女性を支えているのかを労働内容や労働時間などを現地でのフィールドワークを通して調査し、分析したい。加えて、先行研究(論文などの資料)だけではわからない新たな要因も現地でのフィールドワークの調査の中で探していき、見つかった場合はその効果について検証していきたい。

そして、最後には、フィリピンの女性の社会進出の今後の展望についても述べていきたい。

第3章

調査内容

本章では2018年2月に行ったフィリピン・マニラ近郊でのフィールドワークの結果の記述、分析を行う。主に雇用者の女性、ヤヤからのインタビュー・アンケート結果をもとに分析を行う。そして、フィリピンでは家内労働者である「ヤヤ」がどのように女性の社会進出を支えているのか、また雇用者との関係性についてインタビュー・アンケートから明らかにする。加えて、家内労働者「ヤヤ」以外にも女性の社会進出を支えるものはないか調査するため、フィリピン国内の企業や国際機関、教育機関にも足を運んだ。

第1節：研究方法

以下のことを行うことで、ヤヤがどのように女性の社会進出を支えているのか、また、ヤヤと雇用者の関係性について明らかにする。及び、フィリピン国内の企業や国際機関、教育機関にも赴き、家内労働者「ヤヤ」以外にも女性の社会進出を支えるものはないか調査する。

フィールドワーク概要

- ①雇用者の女性(働く女性)へインタビュー・アンケート
- ②ヤヤへのインタビュー・アンケート
- ③アジア開発銀行にてジェンダーコンサルタントへインタビュー
- ④フィリピン国内の企業(PSALM)にて職員、副社長へインタビュー
- ⑤フィリピン大学 Center for Women's and Gender Studies の職員へインタビュー
- ⑥高校生へインタビュー・アンケート

第2節 調査内容

1. インタビュー調査

フィリピンにてインタビュー調査を行った。ヤヤを雇用する女性(働く女性)、ヤヤ、アジア開発銀行にてコンサルタント業務を行う専門家、フィリピン国内の企業に務める職員・副社長、フィリピン大学に務めるジェンダー専門家、現地の高校生にインタビューを行った。雇用者の女性は、過去に正規雇用者として働いていた、または働いている人を対象にアンケートを実施した。以下がインタビューの内容である。

①相手方：Ms.クレア

職業：Asia Development bank のジェンダーコンサルタント

インタビュー場所：ADB 内の小会議室

日時：2018/02/01、午前

「貧困層の女性には仕事のチャンスがなく、海外へ出稼ぎに行きたくても行けない人が多くいる。都市と地方には賃金格差が存在し、都市は月約 5000-6000 ペソ、地方は 3000 ペソほどしか稼ぐことができない。海外に出稼ぎ行く多くの人々は大学卒であり、地方出身の女性は資金がないため現実的に難しい。また、貧困層の人々はアンペイドワーク(家族への奉仕、農業など)を幼少期から行うため、教育を受けるチャンスが少ない。また、家事労働者にはカサンバハイ法というものがあり、家事労働者の権利を守る。フィリピンはかつて家庭内で男性は仕事、女性は家事という文化があったが、現在では女性の社会進出が進み良い状態になってきてはいる。しかし、背後で女性の社会での働きを支えているはまた女性である。」

②相手方：Ms.ラニーザ

職業：University of the Philippines Center for Women's and Gender Studies
のジェンダー専門家

インタビュー場所：Center for Women's and Gender Studies の建物内の図書室

日時：2018/02/02、午前

「フィリピンには GAD 政策やマグナカルタ法など女性たちのための政策がされている。GAD 政策とは最低 5%の予算を女性のために使うことが決められているもの。UP Diliman では育児休暇は男性が 7 日間、女性は 60 日間取ることができる。男性がヤヤの場合もあるが、それは子守りのためではなく、安全のために雇う。地方にはインフォーマルセクターが多く存在し、彼女たちはヤヤを雇うことはできない。インフォーマルセクターとは統計に表れない人々で税金を納めず、働く人々のことを指す。例えば、フィリピン国内でいえば、道端で菓子類を売る人々などが挙げられる。」

③相手方：Ms.マデリン、Ms.エミィ

職業：PSALM 職員

インタビュー場所：PSALM 内の食堂

日時：2018/02/02、午後

「フィリピンには GAD 政策があり、これは女性やその子供のためのセミナーが行われる。PSALM で働く女性とその子供、または家族すべての人が受けることができ、バランスワーク、家族の在り方、暴力、学校でのいじめ問題についてなど取り上げる。これは意識改善のために行われ、また、エクササイズセミナーではストレス発散を目的に行われる。ちなみに一般企業に GAD 政策は適用されないため、各企業が基準を設けてこのような活動をしている。また、女性は 120 日、男性は 7 日間育児休暇が取れる。PSALM は職員の男女比が 1:1 と決められており、実行されている。」

④相手方：Ms.ヘレナ

職業:PSALM 副社長

インタビュー場所：PSALM 内の小会議室

日時： 2018/02/02、午後

「女性たちと個別にメールでやり取りを行うことで、女性たちの悩みを聞き、相談に乗っている。女性社員を常に気遣い、問題があればすぐに解決する。また、メールでは仕事の進捗状況についても聞き、密に連絡を取り合っている。GAD 予算は雇用状況や職場環境を改善するために使う。1年に一度会議で GAD 予算を使って何を行うかを決める。過去には家庭生活を豊かにするために野菜の育て方や護身用の空手の講座を行なった。また、ジェンダーに関する講座は定期的に行うようにしている。」

⑤相手方：Ms.ハンス(雇用者の女性)

職業:主婦(元ホームティーチャー)

インタビュー場所：ハンスの家のリビング

日時：2018/02/02、午後

「アンペイドワーク(家事)については、子供に会える理由ができるから特に気にしない。以前はホームティーチャーをしていたが子供とより多くの時間を過ごすためにやめた。ヤヤは自分にとって家族の一部。とても良い仕事ぶりを見せてくれる。ヤヤは友人に紹介してもらった。ヤヤには主に子守りを任せており、学校までの送り迎えや、掃除、皿洗いも含まれる。特に学校までの送り迎えは重要で、フィリピン国内は治安が悪いため注意して仕事をしてもらっている。食事は基本的に私が作るが食器を出す際などには手伝ってもらっている。また、ヤヤの大学の学費を払っている。」

⑥相手方：Ms.ナイリー(ハンスが雇用するヤヤ)

職業:ヤヤ

インタビュー場所：ハンスの家のリビング

日時：2018/02/02、午後

「子供と勉強しながら、仕事をする。学校へ行かない時間はほぼハンスの子供と時間を共にしている。地方出身で家族が多いためヤヤの仕事は私に合っていると思う。また、他に職業の選択肢がなかった。以前はもう一人のヤヤと一緒に仕事をしていたが、恋人ができたためにやめてしまった。6年間ヤヤの仕事を務め、子守と家事全般を担う。子供のころ十分な教育を受けていなかったため、英語は堪能ではない。学費はハンスが払ってくれていて、ビジネスインフォメーションマネジメント学科に在籍している。仕事をひと段落させて昼過ぎから夜にかけて学校へ行く。」

⑦相手方：Ms.エディソン(雇用者の女性)

職業:セールスマネージャー

インタビュー場所：ハンスの家のリビング

日時： 2018/02/02、午後

「8年間の間で5人のヤヤを雇った。過去には、お金を貯めて海外へ出稼ぎ労働者としてキャリアアップしたヤヤや結婚を理由に辞めたヤヤがいた。また、結婚を理由にヤヤをやめても子育てが終わると復帰する女性が多い。ヤヤは家族のような存在で、子供たちにとってはもう一人の母親のような存在だと思う。主にヤヤには子守をしてもらい、家事全般も頼む。ほぼ一日中ヤヤには仕事をさせていた。今はヤヤを雇っていないが、以前1人は料理、もう1人は家事をしてもらっていた。安全上の理由からヤヤを派遣してくれる会社からではなく友人のツテでヤヤを雇った。子供が赤子から10歳くらいまでヤヤを雇っていた。」

⑧相手方：Ms.カトリーナ、Ms.カミラ、Ms.アミィ、Ms.フェリオール、Ms.キャス、Ms.カルデロン(雇用者の女性)

職業：左から医薬情報担当者(MR)、会社員、レストランのオーナー、ケータリング業者、弁護士、現在は退職

インタビュー場所：英語科レジーナ先生の実家のフリースペース

日時：2018/02/04、午後

「ヤヤは安全配慮のために友達から紹介してもらった。ヤヤには家事と子守、先生のような役割を課していた。自分が子供のころから働くヤヤは自分が母親になっても子供の世話を頼み、引き続き働いてもらっている。ヤヤに気を使い料理は自分で行い、ヤヤに何が食べたいか聞いていた。ちなみにヤヤの食事代は給料とは別で払っていた。ヤヤが一般的に広まったのは1950年ごろからの可能性が高い。ヤヤは家族の一部のような存在。結婚を理由にやめるヤヤもいた。工場で働くよりもヤヤとして働くほうが賃金高いため多くの女性は女工としての道ではなくヤヤとして生きる道を選択する。ヤヤにはプライベート空間を守るため、個室を与えていた。」

⑨相手方：UP PLB Rural High Schoolの高校生4名(男性2名、女性2名)

職業：高校生

インタビュー場所：Rural High School内の小会議室

日時：2018/02/05、午後

「将来はヤヤを雇いたい。理由は家族との時間を大切にしたいから。また、仕事をするためには必要。一緒に食卓は囲まず、別に食べる。ヤヤへ個室が与えられている。ヤヤの方が母親より多くの時間を過ごす。ヤヤは第2の母、また家族の一部のような存在。ヤヤのメリットは、ヤヤから家事を教えてもらえること、家事全般をこなしてくれることで、デメリットはヤヤに依存しすぎてしまうこと。結婚を機にやめていくヤヤがいた。ヤヤは安全配慮のため知人に紹介してもらった。同じヤヤを自分に子供ができたときに再び雇いたい。理由はヤヤの生活を助けたいから。」

2. アンケート調査

フィリピンにて、アンケート調査も同時に行った。ヤヤを雇用する女性(働く女性)23名、ヤヤ3名、現地の高校生39名(男子17名、女子22名)にアンケート調査を行った。アンケート調査のすべての結果は別紙のアンケート集計結果に記録し、本論文では重要な結果のみ取り上げる。

まず、なぜ働く女性はヤヤを雇うかについてだが、子守りをしてもらうため、家事をしてもらうためとヤヤを雇用する女性(23名)は回答し、家庭生活で発生する仕事を行ってもらうためだと明らかになった。つまり、雇用者の女性は子守りを含む家事をヤヤに一任することで、社会進出を果たしているのだ。

次に、ヤヤを雇用する女性、ヤヤ、現地の高校生(計65名)からヤヤの1日の労働時間を回答していただいた。結果は以下の通りである。1～5時間が0名、6～10時間が22名、11～15時間が29名、1日中が12名となった。つまり、ヤヤは長時間、子守りを含む家事に従事し働いているのである。

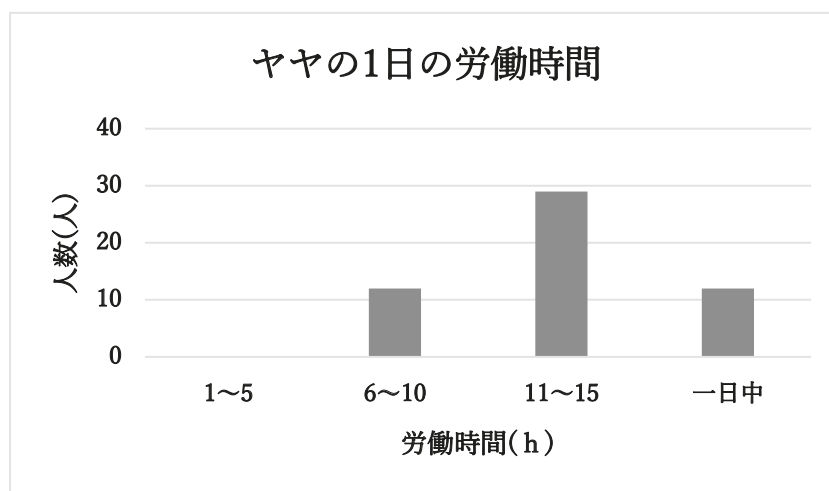


図3 ヤヤの1日の労働時間

続いて、ヤヤは住み込みで働いているかについてヤヤを雇用する女性、ヤヤ、現地の高校生(計65名)から回答していただいた。はいが52名、いいえが5名と圧倒的にはいと回答した方が多く、先の質問と同様に長時間、子守りを含む家事に従事し働いている。

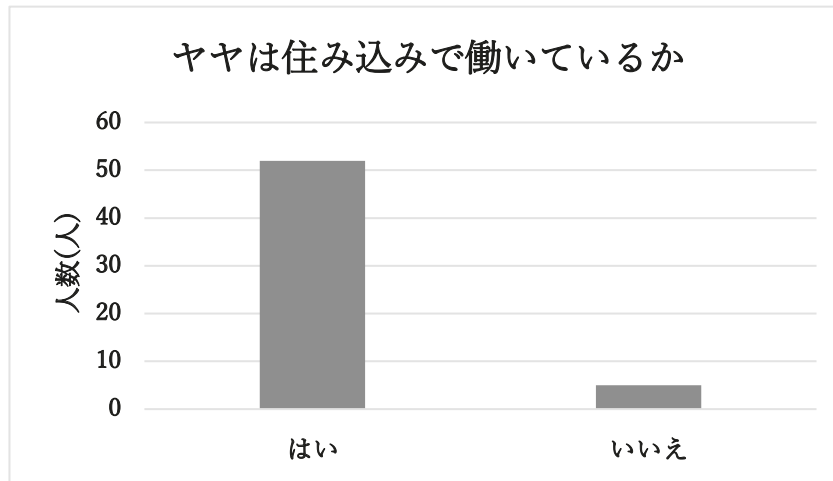


図4 ヤヤは住み込みで働いているかについて

最後に、ヤヤとの間に築かれる信頼度、ヤヤがいない場合の困難度について雇用者の女性(23名)に回答していただいた。ヤヤとの間に築かれる信頼度についての質問では数の値が大きいほど信頼度が高いことを表す。結果は5が11名、4が10名、3が2名、2及び1が0名となった。つまり、ヤヤとの信頼度なしでは雇用者の女性は社会で働くことができないのだ。また、ヤヤがいない場合の困難度についての質問では数が大きいほどヤヤがいない場合困難な状況に陥ることを表す。結果は、5が7名、4が5名、3が4名、2が3名、1が2名となった。中にはヤヤを雇用しなくても困らないと答えた方もいたが、5と4を選択した方が半数を超え、雇用者の女性がヤヤに依存する現象が起きている。

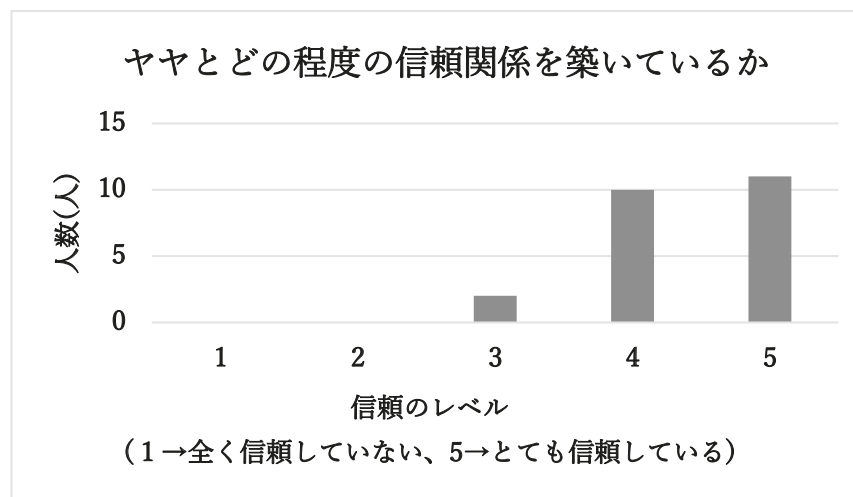


図5 ヤヤとの間に築かれる信頼度について

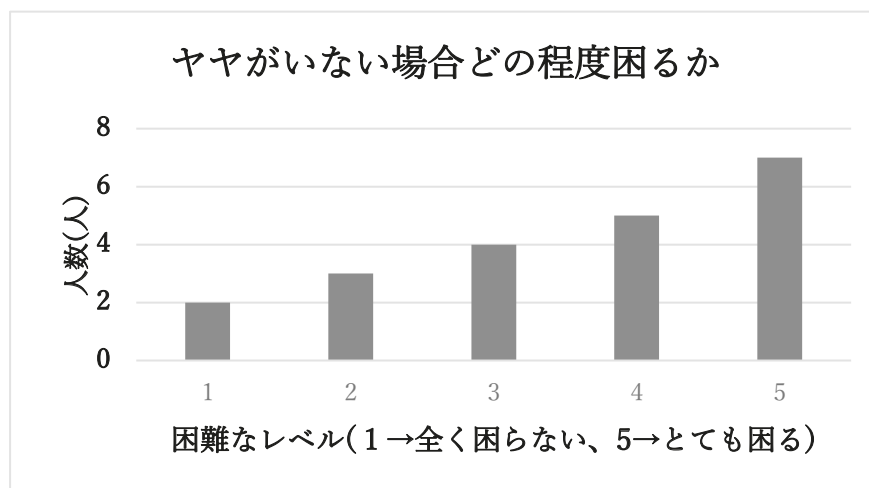


図6 ヤヤがいない場合の困難度について

第3節：分析

インタビュー結果によると、フィリピンでは出稼ぎが有名であるが、それらの女性は大学卒か、フィリピン国内で家内労働者として働き資金を得てから海外へ行く人が多く、ヤヤの女性は出稼ぎの女性より経済的に低い地位に位置している。よって、経済的に低い地位の女性が経済的に高い地位に位置する女性をサポートするという構図が完成する。一方で、一部の家庭で雇用者の女性がヤヤの学費を払っていたことから、雇用者の女性がヤヤの社会進出を容易にしている側面もあるとみられる。また、フィリピンには GAD 予算(Gender and Development)があり、地方自治体やで最低5%の予算を女性のために使わなければならない、女性のためのセミナーや雇用状況を改善するために使用される。このような制度は他国と比べても珍しく、フィリピン独自の制度といえ、予算のうちの5%を使用することから強い力を発揮していると考えられる。加えて、ヤヤは家族の一部であり、互いに信頼関係を築いている。これは、子供の安全面を強化するために必要であり、また雇用者の女性が安心して子供を預けるためには必要不可欠である。そのため、ヤヤの紹介は友人や知人を通じて行われることが多い。加えて、ヤヤにプライベート空間を与えることも重要であった。

アンケート結果によると、雇用者の女性が長時間ヤヤに子守りや家事を頼み、9割以上のヤヤが住み込みで働いている。そして、ヤヤがいない場合の困難度についても半数以上の方が4と5を選択していることから雇用者の女性が持つヤヤへの高い依存度が存在していることが確認できる。また、ヤヤの仕事は「子守り」だけには限定されず、家庭により家事全般を任されているヤヤや家事の一部を任されているヤヤが存在している。そのため、雇用者の女性は子守りだけではなく家庭内で発生する家事もヤヤに頼っている。さらに、信頼度について雇用者の女性とヤヤにアンケートを取ったところ、雇用者の女性は信頼度で1、2を選択した人は存在しなく、9割の女性が4、5を選択していた。また、同じようにヤヤも全員5を選択していた。そのため、雇用者の女性が社会で働ける環境をつくるのにはヤヤとの信頼関係も非常に重要であり、安心して子どもを預けるためにはお互いの信頼関係の構築が必要不可欠であると判明した。

第4節：小括

インタビュー・アンケート結果から、雇用者の女性がヤヤの学費を払っている(一部の家庭)ことがあらたに明らかにされ、両者は互いに支え合って女性の社会進出を実現させているという側面があることが分析できる。また、ヤヤは長時間、子守や家事を雇用者の女性の代わりに担うことで雇用者の社会進出を支えていることが判明した。そして、そのような仕事を実現するためにはヤヤと雇用者で厚い信頼関係を築くことが必要不可欠であり、ヤヤは家族の一部のような存在であることも明らかになった。一方で、家族の一部とはいえ、他人であるためヤヤのプライベート空間は重視されていた。

よって、雇用者の女性は社会で働く間、ヤヤの長時間の厚いサポートにより女性の社会進出を実現していることが分析でき、そのためには、両者の間の信頼関係が非常に重要である。

第4章

ジェンダー政策

本章では、フィールドワークで行ったインタビューで新たに女性の社会進出を支える要因の1つとして明らかになったジェンダー政策について論じる。また、フィリピンのジェンダー政策と日本を比較することにより、フィリピンのジェンダー政策の利点や問題点を明らかにする。

第1節：フィリピンと日本のジェンダー政策

フィールドワークのインタビューで GAD 予算¹⁴を多く耳にした。これはフィリピンでは広く知れ渡っており、他国には見ない制度であり予算のうちの 5%を使用することから強い力を発揮していると考えられる。よって、フィリピンの GAD 予算を含む政策を法律、予算、現在の主な動きから調査し、ジェンダー平等の進んでいない日本と比較することでフィリピンのジェンダー政策に迫り、考察する。ジェンダー政策では女性の社会進出に関するもののみ挙げる。

¹⁴ Gender and Development とは中央省庁ならびに地方自治体に対し、予算の 5%をジェンダーのための予算として利用するほか、残りの 95%についても女性の視点に配慮して予算が執行されるよう、規定する。

ジェンダー政策 比較表

	フィリピン	日本
ジェンダーランキング	10 位	114 位
法律	・ 1987 年フィリピン共和国憲法 ・ ジェンダーに配慮した予算 (GAD 予算) を執行するためのガイドライン ・ 行政令 273 号ジェンダー配慮型開発に向けたフィリピン計画 1995－2025 ・ 女性のためのマグナカルタ	・ 男女雇用機会均等法 ・ 男女共同参画社会基本法 ・ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律
女性のための予算	1 億 6000 万円(フィリピンの女性の役割委員会にあてられる) →全体の約 0.002%	141 億 7000 万円(各政策にあてられる) →全体の約 0.014%
政府直轄の団体	フィリピンの女性の役割委員会 →1975 年設立	すべての女性が輝く社会づくり本部→2012 年設立

第 2 節：分析

両国のジェンダー政策の出発点は 1980 年代でほぼ同時期である。しかし、世界経済フォーラムが発表する指標では 100 位以上差をつけている。また、政府直轄の団体が設立されたのはフィリピンが 1975 年であるのに対し、日本は 2012 年と記憶に新しい。加えて、予算面では日本がフィリピンより多い結果となったが、これは全体の予算額に大きな差があるためこのような結果になったと考えられる(日本：97 兆円フィリピン：7 兆円)。そして、法律面では 1985 年に男女雇用均等法が施行されたものの、企業により女性のための配慮にばらつきがあったため効果的に機能しなかった面がある。一方でフィリピンは GAD 予算を施行するためのガイドラインを作成、またジェンダー配慮型開発に向けたフィリピン計画など明確なプランを打ち出したことで現在の結果に至った。

第 3 節：小括

フィリピンで行われているジェンダー政策は日本と比べ効果的で、インタビューで GAD 予算の意見が多く出たことから一般にも広く知れ渡っている。また、フィリピンの女性の役割委員会が率先して、ジェンダー政策に取り組んでいる姿も見られる。そのため、フィリピンのジェンダー政策は人々にとって身近に存在し、「あたりまえ」のことになっていることが分析できた。

一方で、越智(2016)¹⁵が GAD 予算額は制度開始時の 1995 年から 2009 年まで、1%を

¹⁵越智(2016), p.154.

超えたことはなく、ジェンダー予算の実施は多くの壁に直面したと述べ、これは驚くべき事実である。この問題は日本と同様に法的実効性の低さや定義のあいまいさが原因となり発生した問題である。そのため、両国はこのような問題を早期に解決するため、政府直轄の団体をはじめとするグループを中心にこれらの問題点を明確にし、対策を講じる必要がある。

終章

結論、課題と展望

本論文では、ヤヤの長時間の労働と互いの信頼関係を築くことにより、フィリピンの女性の社会進出を支えていることが明らかになった。ヤヤは半日以上、または一日中雇用者の女性の子どもの子守り、また家庭によっては家事を並行して行う。これは、雇用者の女性にとって朝から夕方まで正規雇用者として働くために重要な要因と言える(フィリピンの首都圏では交通渋滞も問題であり、雇用者の女性の帰りが遅い原因になっている)。そして、ヤヤは信頼できる人材であることが必須であり、治安が不安定なフィリピンでは安全面を強化し、雇用者の女性が安心して働くためには必要不可欠である。

また、鈴木(2012)¹⁶によると管理的・専門的・技術的職業に従事する労働者と未熟練労働者(家事労働者が含まれる)に二極化しているとあったが、雇用者の女性へのインタビューでヤヤの学費を払っている家庭があることが明らかになった。よって、両者は完全に二極化はせず相互に助け合うことで(ヤヤは子守りを含む家事、雇用者の女性は学費を払う)女性の社会進出を両者が実現していると分析した。

このように、ヤヤは女性の社会進出を支える一方、自身の社会進出を実現している側面もあるがヤヤはインフォーマルセクターという側面も持ち働く家庭により労働状況は変わる。フィールドワークを行った結果では賃金は月 P10000 以下でヤヤは働き、フィリピン国内の平均である P22250 を大きく下回る。よって、ヤヤとして働く現状、雇用者の女性と経済的に対等な地位には立つことができない。そして、カサンバハイ法¹⁷が 2013 年に施行されたが、効果は可視化されていない。そのため、ヤヤを取り巻く環境はこれから変化する可能性が考えられ、注目に値する。

加えて、フィリピンでは他国には見られないジェンダー政策を行なっていることが明らかになった。GAD 予算は法律で定められ、中央省庁や地方自治体はこれに基づいて女性をサポートしなければならない。しかし、正しくジェンダー予算が使用されない場もあるため、フィリピンの女性の役割委員会を中心とし、改善をする必要がある。

(文字数 : 15624 文字)

¹⁶ 鈴木(2012), p.2.

¹⁷ REPUBLIC OF THE PHILIPPINES “Republic Act No. 10361”.

カサンバハイ法とは家事労働者を含む国内労働者の保護と福利厚生のための裁定方針である。

-参考文献-

(著作)

・ キャサリン・ソブリチャ『フィリピンにおける女性の人種尊重とジェンダー平等』、東京：御茶の水書房、2012 年。

(論文)

- ・ 大村雪香(2017)「階層構造の不可視化と再生産－フィリピンにおけるヤヤ(小守)をめぐる親密性から－」 京都大学大学院博士論文
- ・ 越智方美(2016)「男女平等を指向する予算制度 フィリピンにおけるジェンダー政策の事例」、『NWEC 実践研究』6 号、148～162 頁。
- ・ 堀内光子(2017)「韓国、日本及びフィリピンの男女平等度-ジェンダー格差指数からみた考察-」、『アジア女性研究』26 号、51～66 頁。
- ・ 堀江孝司(2017)「安倍政権の女性政策」、『大原社会問題研究所雑誌』、2 号(No.700)。
- ・ Maria Rosario ・ T. De Guzman (2014) “Yaya: Philippine Domestic Care Workers, the Children They Care for, and the Children They Leave Behind”

(WEB サイト)

- ・ 鈴木有理佳(2012)「名誉なランキングの背景にある格差」
(http://www.ide.go.jp/library/Japanese/Publish/Download/Overseas_report/pdf/1201_suzuki.pdf)。
- ・ 「ニチイ学館、フィリピン人家政婦の研修開始」、『日本経済新聞』、2018 年 2 月 13 日、Web 版、(<https://r.nikkei.com/article/DGXMZO26836300T10C18A2X12000>)。
- ・ 「外国人家政婦、東京にも 都が家事代行 6 社認定」、『産経ニュース』、2017.2.23、Web 版、(<https://www.google.co.jp/amp/s/www.sankei.com/politics/amp/170223/pl1702230016-a.html>)。
- ・ WORLD ECONOMIC FORUM “The Global Gender Gap Report 2017”,(<https://www.weforum.org/reports/the-global-gender-gap-report-20179>)。
- ・ 内閣府男女共同参画局「女性活躍加速のための重点方針 2017」、
(https://www.kantei.go.jp/jp/headline/brilliant_women/pdf/20170606honbun.pdf)。
- ・ 内閣府男女共同参画局「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」
(http://www.gender.go.jp/about_danjo/law/pdf/brilliant_women02.pdf)
- ・ 内閣府「平成 30 年度予算案 概要」
(http://www.cao.go.jp/yosan/soshiki/h30/yosan_gai_h30.pdf)。
- ・ 首相官邸「ニッポン一億総活躍プラン」、
(<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ichiokusoukatsuyaku/pdf/plan3.pdf#page=7>)。
- ・ 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)平成 29 年(2017 年)平均(速報)」、
(<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/nen/dt/pdf/index1.pdf>)。
- ・ 総務省統計局「労働力調査(基本集計)平成 29 年(2017 年)平均(速報)結果の要約」、
(<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/nen/ft/pdf/index1.pdf>)。

- ・厚生労働省「雇用形態別雇用者の推移と近年の特徴」、(<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11600000-Shokugyouanteikyoku/0000072688.pdf>)。
- ・国際協力銀行(JBIC)「第 19 章 労働事情」、(https://www.jbic.go.jp/wp-content/uploads/page/2015/08/40843/inv_Philippines19.pdf)。
- ・Philippines Statistics Authority
“2017 Annual Labor and Employment Status”(https://psa.gov.ph/content/2017-annual-labor-and-employment-status).
- ・Philippines Statistics Authority “2017 Annual LFS Estimates Tables”(https://psa.gov.ph/statistics/survey/labor-and-employment/labor-force-survey/table) .
- ・Oxygen 「SDGs5『ジェンダー平等を実現しよう』」、(<http://oxygen-media.net/archives/568>)。
- ・外務省「SDGs（持続可能な開発目標）持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」、(https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/about/doukou/page23_000779.html)。
- ・外務省「目標 5:ジェンダー平等を表現しよう」、(<http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sdg/post-2015-development-agenda/goal-5.html>)。
- ・内閣府男女共同参画局「第 5 章フィリピン」、(<http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/sekkyoku/pdf/h19shogaikoku/sec5-1.pdf>)。
- ・Philippine Commission on Women“Women’s Empowerment, Development and Gender Equality (WEDGE) Plan 2013–2016”(http://www.pcw.gov.ph/sites/default/files/documents/resources/womens_edge_plan.pdf).
- ・Philippine commission on women“Gender and Development Budgeting in the Philippines”(http://library.pcw.gov.ph/sites/default/files/Gender%20and%20Development%20Budgeting%20in%20the%20Philippines.pdf)
- ・Department of budget and management“National expenditure program 2017”(https://www.dbm.gov.ph/wp-content/uploads/NEP2017/OEO/AE.pdf).
- ・Philippine Commission on Women“Republic act 9710 Magna Carta for Women”(http://www.pcw.gov.ph/law/republic-act-9710)
- ・Philippines Statistics Authority“Income and Expenditure”(https://psa.gov.ph/tags/income-and-expenditure).
- ・REPUBLIC OF THE PHILIPPINES “Republic Act No. 10361”(http://www.officialgazette.gov.ph/2013/01/18/republic-act-no-10361).

謝辞

本論文を書くにあたって、指導教諭の吉田賢一先生、フィールドワークでお世話になったレジーナ先生、2年次でご指導をいただいた藤野昌哉先生、卒業支援プログラムのサポートをいただいた建元喜寿先生、また、その他にもサポートをしてくださった先生方、本当にどうもありがとうございました。先生方には大変手厚い指導をしていただき、深く感謝しております。多くの助言とご協力、本当にありがとうございました。特に、現地でのコンタクトを図っていただいたレジーナ先生なしには本研究は実行することができませんでした。

そして、フィールドワークではほぼ毎日お世話になったジャニスをはじめ、調査でお世話になったレジーナ先生の親戚・友人、ズンバコミュニティの方々、PSALMの職員の皆様、ADB ジェンダーコンサルタントのクレア様、フィリピン大学のジェンダー専門家ラニーザ様、ルーラルハイスクーの皆様には本当に感謝しています。

本研究が、女性の社会進出の発展、そして後輩に少しでも貢献できれば幸いに思います。

アンケート集計結果

3年D組 42番 山口慧那

○ヤヤへのアンケート

回答人数：3名

Q. 主な仕事内容は何か？

A. 小守・家事

Q. 1日何時間働いているか？

A. 1日中（24時間）

Q. 住み込みで働いているか？

A. はい 2名 いいえ 1名

Q. 月の給与はどれくらいもらっているか？

A. P4,000~P10,000 2名

~P4,000 1名

Q. ハウスルールはあるか？

A. はい 1名 いいえ 2名

→はい 門限は夜の12時まで

Q. なぜヤヤとして働くのか？

A. 家族を養うため、勉強するための資金を得るため、子どもが好きだから

Q. 信頼関係をどの程度構築できているか？（1→悪い5→良い）

A. 5を選択→3名

Q. 雇用者の女性（子供の母親）より雇用者の子どもと長い時間を過ごしているか？

A. はい 2名 いいえ 1名

○雇用者の女性へのアンケート

回答者数：23名

- ・過去に正規雇用者として働いていた、または働いている人を対象にアンケート
- ・一部無回答あり

Q. 最終学歴

A. 大学 13名 大学中退 1名 大学院 2名 MBA 3名 高校中退 1

Q. 1 週間あたりの労働時間

A. 40~50 時間 16 名 51 時間~ 3 名

Q. 1 か月あたりの世帯月収

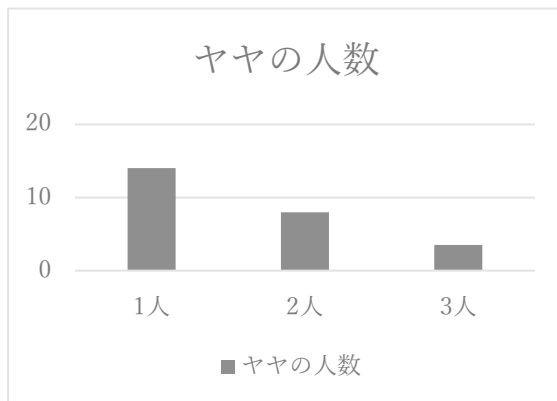
A. P3,000~P60,000 6 名

P60,000~P100, 00 6 名

P100,000~ 10 名

Q. ヤヤの人数

A. 1 人→14 名 2 人→8 名 3 人→1 名

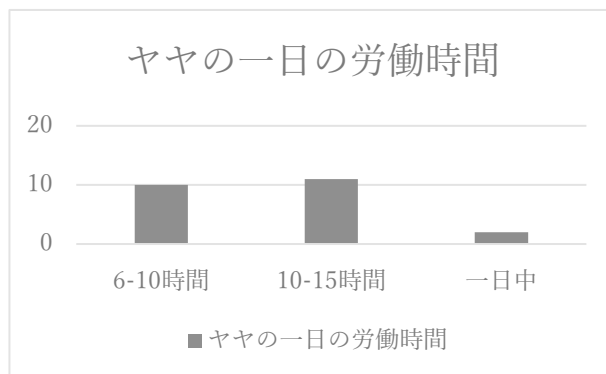


Q. ヤヤの1日の労働時間

A. 6~10 時間 10 名

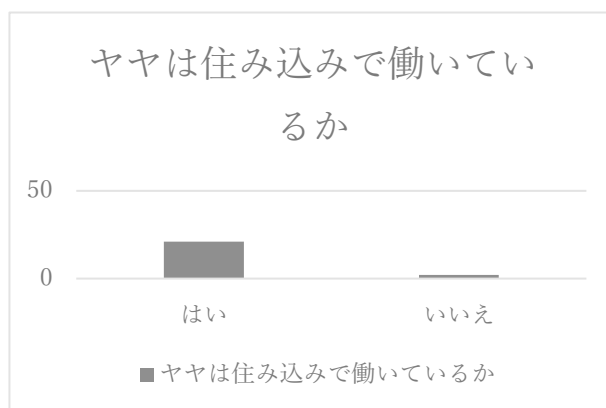
10~15 時間 11 名

1 日中 2 名



Q. ヤヤは住み込みで働いているか？

A. はい 21名 いいえ 2名



Q. なぜヤヤを雇うのか？(複数回答有り)

A. 子守をしてもらうため 16名

家事をしてもらうため 9名

共働きだから 1名

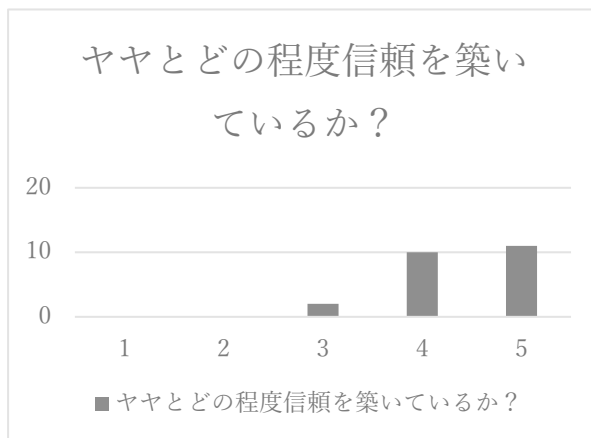
Q. ハウスルールはあるか？(複数回答有り)

A. はい 19名 いいえ 3名

Ex) 知らない人を家の中に入れない、子どもから目を離さない、外出する場合は許可をとる、家の清潔さを保つ、仕事中の携帯操作禁止、雇用者に従う。

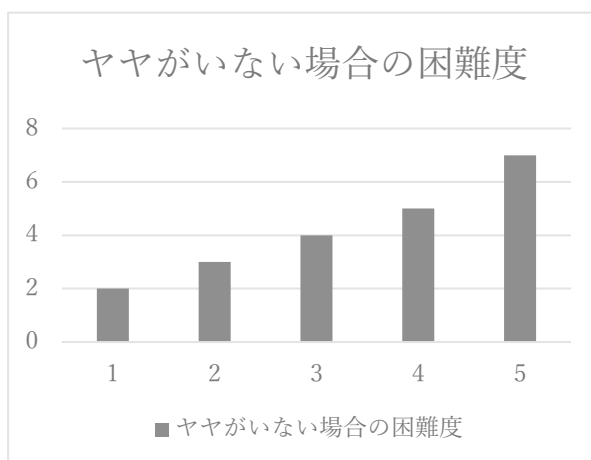
Q. どの程度の信頼関係を築いているか? (1→とても悪い 5 とても良い)

A. 5→11名 4→10名 3→2名



Q. ヤヤがいない場合、どの程度困るか? (5→とても困る 4→全く困らない)

A. 5→7名 4→5名 3→4名 2→3名 1→2名



Q. ヤヤを雇うことで得られる利益（複数回答有り）

A. Ex) 働くことができる、子守をしてくれる、子どもの安全を確保できる、自分の時間を
持つことができる、家事をしてくれる。

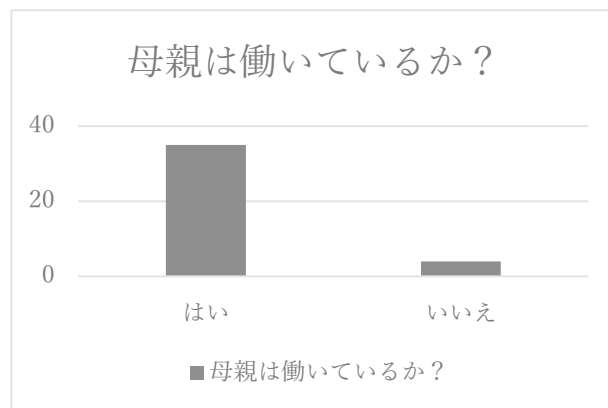
○高校生へのアンケート

回答者数：男子 17 名 女子 22 名 計 39 名

- ・一部無回答あり
- ・家事労働者を雇っている家庭の高校生にアンケートを実施

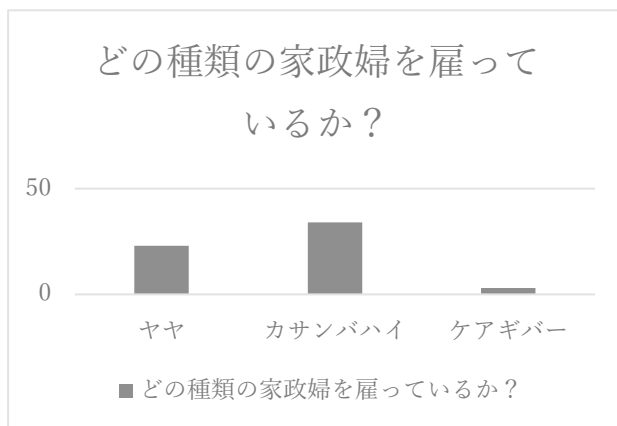
Q. 母親は働いているか？

A. はい 35 名 いいえ 4 名



Q. どの種類の家事労働者を雇っているか？（複数回答有り）

A. ヤヤ 23 名 カサンバハイ 34 名 ケアギバー 3 名



Q. ヤヤの役割（責任）

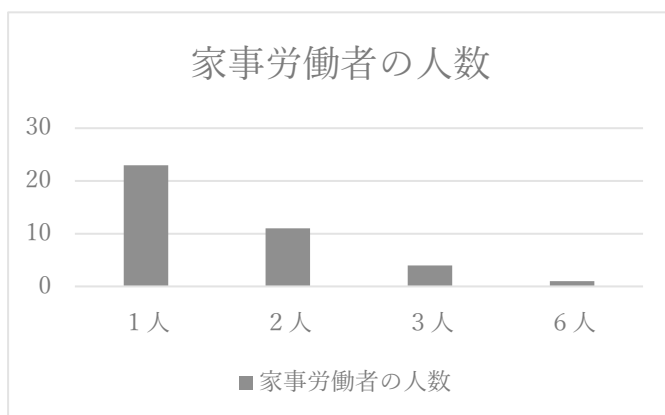
A. Ex) 子守、家事、家族を支援する

Q. ヤヤを雇うことで得られる利益（複数回答有り）

A. Ex) 働くことができる、子守をしてくれる、自分の時間を持つことができる、家事をしてくれる、生活が快適になる。

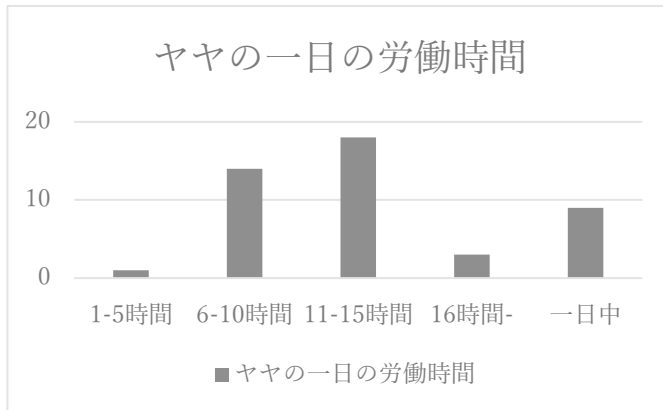
Q. 家事労働者の人数

A. 1人→23名 2人→11名 3人→4名 6人→1名



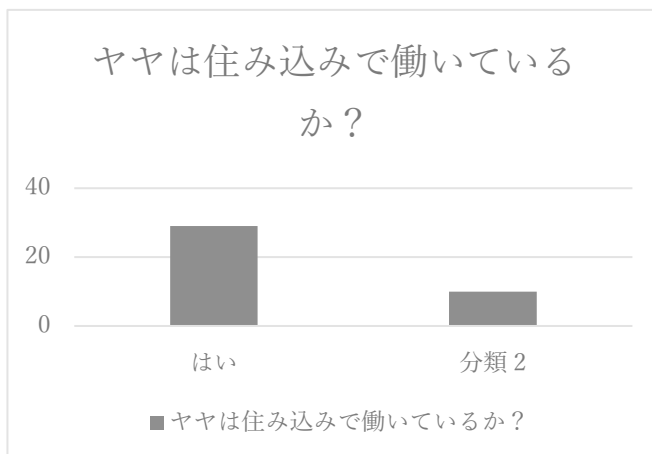
Q. ヤヤの1日の労働時間

A. 1~5時間 1名 6~10時間 14名 11~15時間 18名 16時間- 3名 一日中 9名



Q. ヤヤは住み込みで働いているか？

A. はい 29名 いいえ 10名



Questionnaire (mother)

Please put a check mark on your choice or write down your answer.

Age _____ Civil status _____ Town/City _____

Q1. How many people are there in your family? (Write down the number of family members.) _____

Q2. How many daughters or sons do you have? (Please write down number of daughters and sons.)

Daughter _____

Son _____

Q3. What is your highest educational attainment? _____

Q4. Are you currently employed? ☐ Yes ☐ No

Q5. If yes, what do you do? (Please write down your occupation)

Q6. How many hours in a week do you work? _____

Q7. What is your family's average household income?

☐ Below P30,000

☐ P30,000 – P60,000

☐ P61,000 – P100,000

☐ Above P100,000

Q8. How many *yayas* are there in your home? _____

Q9. What is the average work hours of the *yaya* in a day? _____

Q10. Does *yaya* live in you house? ☐ Yes ☐ No

Q11. Why do you hire a *yaya*?

Q12. Do you have any house rules in your house? ☐ Yes ☐ No

Q13. What age was your child when you first hired a *yaya*? How long have they been working for you?

(Please write down your child's age)

Ex) 3 years old – 15 years old

-
-
-
-
-

Until what age do you plan to hire a yaya for your child? _____

Why that age?

Q14. Could you tell me the measure of the quality of your relationship with your yayas?

1 is bad 5 is good

☐1 ☐2 ☐3 ☐4 ☐5

Q15. What kind of assistance does your yaya provide?

If you do not have any yaya, how much are you in trouble?

1 is in trouble 5 is very much in trouble

☐1 ☐2 ☐3 ☐4 ☐5

Q16. What benefit do you have the most by hiring yayas? (Please write down most helpful points)

Q17. In addition to yayas, what factors are important for you to go out to work?

Q18. Did you have yayas when you were a child?

☐ Yes ☐ No

Q19. Do you think that many women have working opportunities in the Philippines?

☐ Yes ☐ No

Salamat po!

Questionnaire (*yaya*)

Please put a check mark on your choice or write down your answer.

Gender ☐ male ☐ female Age _____ Town/City _____

Civil status _____

Q1. How many people are there in your family? _____

Do you have children? ☐ Yes ☐ No

If yes, how many daughters or sons do you have? Please write down their ages.

Ex)

Daughter's age	Son's age
8	17

Daughter's age	Son's age

Who is taking care of your children? _____

Q2. What is your highest educational background? _____

Q3. How long have you been working as a yaya? (Please write down the length of service)

Q4. What are your job responsibilities?

Q5. How many hours do you work in a day? _____

Q6. How many days off do you have in a month? _____

Q7. Do you live in employer's house? ☐ Yes ☐ No

Q8. What is your average salary in a month?

☐ above P10,000

☐ P4,000 – P10,000

☐ below P4,000

Q9. Do you have any house rules in your working house? ☐ Yes ☐ No

Please write down some of the rules.

Q10. Why do you work as Yaya?

Q11. What are the advantages of working as a yaya?

What are the challenges of working as a yaya?

Q12. Could you tell me the quality of your relationship with your employers? (Please check the most appropriate answer.)

1 is bad 5 is good

☐1 ☐2 ☐3 ☐4 ☐5

Q13. Do you think you spend more time with the kids than their mothers?

☐Yes ☐No

Q14. Do you think that many women have working opportunities in the Philippines?

☐Yes ☐No

Why? please explain your answer.

Salamat po!!

Questionnaire (high school students)

Please put a check mark on your answer or write down something.

Q1. Gender (Please check the most appropriate answer.)

☐male ☐female

Q2. Age (Please write down your age.)

Q3. How many people are there in your family? (Please write down number of family members.)

Q4. How many sisters or brothers do you have? (Please write down number of daughters and sons.)

Sister _____ Brother _____

Q5. Is your mother working?

☐Yes ☐No

Q6. Do you have house help or did you have house help?

☐Yes ☐ No

If you answered yes, please proceed to Q7.

If no, please proceed to Q15.

Q7. What do your mother do? (Please write down your mother's occupation.)

Q8. What kind of house help? (Please check all appropriate answer.)

☐yaya ☐Katulong or Kasambahay ☐caregiver

Q9. What are their responsibilities?

Q10. What benefit do you have the most by hiring *yayas*?

Q11. How many house helpers are there in your home? (Please write down the number of care labor.)

Q12. How many hours are they expected to work? (Please write down their working hours.)

Ex) am8:00-pm6:00

Q13. What age did you start hiring? And How long have they been working for you? (Please write down your age.)

Ex) 3years old - 15years old

4years old - now

	Your age
Yaya	-
Katulong or kasambahay	-
Caregiver	-

Q14. Does care labor live in your house? (Please check the most appropriate answer.)

☐Yes ☐No

Q15. If you work in the Philippines in the future, will you hire a care labor? (Please check the most appropriate answer.)

☐Yes ☐No

Why?

Q16. Do you think that many women have working opportunities in the Philippines?

☐Yes ☐No

Salamat po!!

(Free comment)

--

Ⅱ 国際フィールドワーク活動報告書

SGH Report

Community Development by Promoting Local People's Activities

The way to commit to the local area

Mizuki Fukuda

Senior high school at Sakado, University of Tsukuba

ABSTRACT

Deforestation is one of the serious problems in the world. We acted this FW in Sarongge village, in Indonesia which is showing sever deforestation.

Community development is very important to realize forest conservation. We tackled with the problem by promoting local people's activity in Sarongge village.

Key wards

Indonesia Community development Local people Commitment

□Introduction

Forest conservation is necessary, because 130,000 hectares of the forest are disappearing every year all over the world. How do we prevent deforestation? Community development is one of the ways to realize forest conservation. By increasing income in local communities, local people are able to have the activity for forest conservation constantly. In our case, people who have such a great activity are the women's association called PKK. We decided to promote their activities in this FW.

□Research

PKK's members are making hand-made products by themselves and a part of their incomes are used in forest conservation.

To promote their activities more,

we conducted three activities in Sarongge village with PKK.

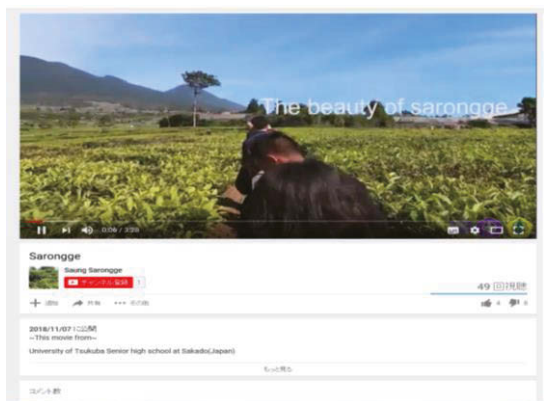
1. Improve Sambal sauce product which is spicy sauce in Indonesia to develop the PKK's new product.

Sambal sauce made by Ms. Upon, a PKK's member, is popular among Sarongge people, but other people don't know the product well. To make it more famous and better product, we conducted tasting and survey for thirty people at Gunung Gede Pangrango National Park and made questionnaires survey to tourists. The questions are about the taste, how spicy, the price, and container. We analyzed that the sambal sauce needs more salt and spice than original one and its price and container are appropriate. Based on the results, we made some feedback to PKK.



2. Make a promotion video of Sarongge village to attract more visitors.

In the video, we introduce the beautiful sceneries of Sarongge village, PKK's activities, accommodation, silk factory, tea fields, radio station, and local people in village. We uploaded the video on Youtube.



3. Improve and sell PKK's soaps to increase their income.

PKK's soaps are all organic but they didn't have ingredients lists to prove it. That's why we made ingredients lists and put it on back side of the soaps. In addition, this year is the end of international field work, so that we changed the logo of soaps temporarily to express gratitude to PKK who helped us a lot. The new logo contains three emblems

(Senior high school at Sakado, University of Tsukuba/ Forestry Vocational High School of Indonesia / LAB School SMA Kornita

IPB

Bogor)



We also sold out twenty-six soaps at Gunung Gede Pangrango National Park and promoted it with the poster we made.

□ Conclusion

If we want to solve some issues, it is important to take an action and go to the field. However, for the local people, we are out-sider and we probably can't do anything because we don't know the local area, needs, and resources. In order that we commit to the local area, we need to survey of the local, cooperate with local people, and take an action with them. It's because people who continue the activity for forest conservation are local people. Therefore, I think abilities to adopt our action to the local situation is necessary.

□ Acknowledgement

I am deeply grateful to Mr. Tatemoto, Mr. Yoshida, all of my friends in Indonesia, PKK members, Sarongge villagers, these who have cooperated with us. Finally, this FW is supported by SGH program.

Minami SAITO

University of Tsukuba, Senior high school at Sakado

■ ABSTRACT

In Sarongge village of west Java, Indonesia, there is a problem of inappropriate garbage disposal process. Through our survey, children in Sarongge village often throw trash away. In order to create an ownership mentality for saving the environment, we have conducted lessons about forest conservation and environmental issues to the elementary school children and junior high school students there.

■ KEY WORDS

Inappropriate garbage disposal process, Ownership, Environmental education

■ INTRODUCTION

These days, the damage to environment becomes bigger and bigger by rapid development. To solve the problem, it's necessary for everyone to take an action for forest conservation.

In our research field, people throw away and burn garbage including plastic every day because of insufficient trash separating system. Especially, children throw away plastic garbage because the package of snack and lunch are made of plastic.

Through the situation, it's necessary to create an ownership for saving the environment by telling students the damage on the environment from their customs. This is the reason why we did environmental education to local children.

■ ACTION

Before going to the Sarongge village, we made a plan to tell the bad thing of illegal logging through our lesson. There are huge tropical rain forests in Indonesia, but 1.5 to 2.0 billion ha of forests have been destroyed every year. One of the main reasons is illegal logging so we thought it's necessary to teach the damage to the environment.

However, we found a garbage problem is more necessary to teach through the research at the Sarongge village.

First, there are a lot of plastic garbage by the roadside and under the trees. On the other hand, local people often burn the garbage including plastic at each house or school. Especially, children make many plastic garbage, for

example, the package of their lunch and snack.



Garbage on the roadside mainly plastic

In Japan, all the students have school lunch or lunch box for a lunch. However, in Indonesia, people have childish image to bring lunch box, and many students buy their food, and after eating, they throw it away. Through the research, we think it's necessary to teach students how a bad thing to throw away plastic for the environment and make ownership through our lesson.

Second, the garbage in the local area is not separated un organic or organic because of inappropriate garbage disposal process. We saw few trash box which is made for separating garbage in local school, but in it, garbage was not separated. In Indonesia, most of the garbage goes to each garbage mountain. But there is a place we can recycle the plastic garbage to a micro plastic called "BANK SAMPAH". If you separate the garbage and bring plastic garbage there, you can get money. In addition, at the Sarongge village, there is a women's society called PKK in which women make some convenient goods from plastic garbage. Like that, recycling garage has

many good effects to the environment and all people. Therefore, we tell the importance and good thing of separating garbage to the students in our lesson.



Burning garbage in local school

■ CONCLUSION

At first, I found customs would make bad effects to the environment through the research in the local area. To solve this, having an ownership is very important. All people can do anything for saving the environment such as separating garbage and not to throw away garbage. One people's action has a possibility to change the others. In the case of us, we create children's ownership mentality through the environmental education as a "COMMON LANGUAGE".

I hope students to remember each thinking through our lesson and to become leaders of saving the environment in the future.



Share own opinion of the environment each other

Ichiro Takata

Senior High School at Sakado University of Tsukuba

ABSTRACT

Now we have many environment issues in the world and we must make our society sustainable. However, almost all the issues are made by our life style. It is often said our life the issue of global e has a big influence on the global environment. It is necessary to live life that I snuggled up to the earth to live more continuously in that on this earth. It is difficult to live life that snuggled up to the earth when I do not know it what in the life can be improved by a problem how. We shared a problem, and it wanted to make an opportunity to think about them life style and environment.

□Key words

Indonesia, SaronggeVillage, Environmental Education, Opportunity, Garbage, Students

□Introduction

We found three important keys to forest conservation through International Field Work. That is Cooperation, Commitment, and Collective Impact. We think that when they are combined, we can have much influence for forest conservation. I joined Environmental Education team and we made lesson at two local schools that are an elementary school and a junior high school.

□Research

Our research site is a local elementary school and a local junior high school. We conducted four activities for environmental education.

《 Step1: Interview to teachers and students of local school》

At fast we interviewed to teachers in the elementary school and the junior high school to research about what is the biggest issues for students at schools. Then we understood the biggest issue for children is garbage problem. They usually throw away a lot of garbage on field. Some teachers said that they don't use trash box and even if they use it, the classification is insufficient also the students said that they don't bring lunch box so they buy some foods and throw away garbage which were used for wrapping foods. We found the importance of changing people's habit to throwing

garbage at first.

《Step2: Survey at around the school》

We did survey around the school. We saw the amount of garbage on the field and these are collected near students. We



looked the garbage problem ourself.

《Step3: Making Lesson Plan》

We made environmental education lesson on the basis of interview and survey. Lesson's topic is garbage problem. We had discussion about influence on forest by throwing away the garbage.

《 Step4: Trials in Elementary /Junior high Schools》

Finally, we conducted environmental education in two schools.

【Elementary school】

Targets : 4 · 5 · 6 grade / 28students

Contents : Presentation about garbage problem, A Drama about garbage and



forest, A game of separate garbage, Drawing a picture of own opinion through the lesson.

【Junior High school】

Targets : About 90 science club students

Contents : Presentation about garbage problem, Group discussion about garbage, Presentation by students.



□Conclusion

We think we could make the class that unforgettable. Our lesson may remain in the students' memory. The reason why we made some opportunity for the children to understand the environment issues by throwing away the garbage put it together for the stages of development of the student. Elementary school students used them sense. We made the lesson which is experience-based class. Junior high school students used them as the intellectual power. We made children raise awareness and ownership as global citizens. The important thing is to commitment to the students.

□Acknowledgement

I am grateful to all the students from Kornita and Forestry vocational high school for useful discussion.

□Abstract

We are living creatures, so that we are dependent on natural resources. One of the problems is decrease trees which are in Indonesia. Thus we need to solve it. Community development is one of the ways to solve it. That is why I took actions in Indonesia.

□Key words~

Cooperate, Commitment, Collective impact, Indonesia

□Introduction~

We are using a lot of paper. The paper is made in Indonesia, so that we are taken care by Indonesia. I want to send back appreciation to Indonesia. That is the reason why I joined this international field work. We cooperated with PKK to Forest conservation.

(PKK), I need to speak Sundanese. I couldn't speak the language, However, I didn't get confused, because one of my members are able to speak Sundanese.

I also could help PKK's other activity which is making organic soap and share those activities to people living in urban areas.

□Research and action~

We took action in Indonesia because Indonesia has the same issues. One of the problems is illegal logging, so we took actions for forest conservation in Indonesia. In this report, I will show you our activities.

In this time I felt that it is restricted if I do activity with only Japanese people. In other words, doing activity with local people is very important. I could share those information and sell some soaps, because local people helped us. The total amount of benefits is Rp. 573,000.

In this time, I cooperated with local people who is living in Sarongge village in west Java and carried out environmental conservation activities. When I talked to people in the village

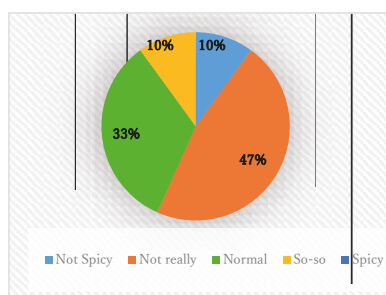
The next is about soap. I supported PKK to improve quality of soaps. I have some reasons. The first reason is that this soap is made from organic materials, so it is good for earth.

Second reason is that this product is one of the Sarongge's souvenirs, but now it grows up and become income source of PKK's forest conservation activities. That is why I supported this activity.

I have another activity of this soap. I made soap's ingredients list, because I want to tell customers the fact that the soap is organic. Also I made a soap's collaboration logo.



PKK make spicy sauce which is called Sambal. I took questionnaires to include the soap's taste to Tourists. I send back the results to PKK. I will show you one of the results.



This question is how the taste of Sambal? 47% people say, not really. 33% people say, normal. I asked some comments to customers. One of the customer said adding more salt is better.

❑ Conclusion

I learned many things in this international field work. It is necessary to do activities with local people. Japanese people make some plans and do the plan. It is very difficult. If I can do this, it has limitation, and bringing down is more difficult.

One of my purposes is making something to remember our activities, so I made a promotion video of Sarongge village. In the movie, I add PKK's activity. I think making somethings is very important, because if I make a something, everyone can remind easily.

Through this international field work, making a plan which is made by only Japanese people is not so good. Cooperated with local people is better, because the local people know the area's resources and also know the issues. That means cooperate with local people is very important.

Another point is how we involve many people. Involving many people is important thing, because if many people involve, the people can know the state. That is why I thought it is important.

❑ Acknowledgements

I would like to thank Pak Yoshi, Pak Ken, and Ibu Miki. I am also grateful to Ibu Irma and Pak Inama. Finally I would like to thank all of my Indonesian friends and local people in Sarongge for useful discussion.

❑ABSTRACT

Ssrongge village is conducting various activities for visitors in order not to cut forest any more. However, their activities are still developing. Eco-tourism team tackled this problem by making guidebook in order to make activities in Sarongge more attractive.

❑Keywords

Guidebook, Natural forest, Local community, Farm lands, Ecotourism

❑Introduction

To conserve the forest, villagers in Sarongge thought they have to save the natural forest. They made benefit by cutting trees then so that they started activities for visitors. Eco-tourism team focused on tourism resources in village. Sarongge village have potential as a tourism site. We think Sarongge village is in demand for tourists because of activities in Sarongge village. People who lives in urban side don't know local lifestyles. We set a goal in this fieldwork promoting local activities by making a guidebook.

❑Research

In order to make a guidebook, we conducted three activities mainly in Sarongge village.

①Conducting questionnaire survey

We conducted questionnaire survey

about Sarongge village to villagers who have various occupation because we did not have much information about village. Targets of questionnaire are farmer in village, community leader of village, women's association (PKK) leader, villagers who accept homestay. The details of questionnaire are:

- Where do you recommend in this village?
- What is fascinaiton of village?
- What do you think of Eco-tourism?
- Who conduct Eco-tourism in Sarongge?

②Field visiting

Through questionnaire survey about village, we could get information of village. After this, based on questionnaire, we visited facilities of village in order to investigate detail of them. Especially we thought about how we should promote them.

1. Tea factory and tea farm

Sarongge village have large farm lands and most of them are tea garden. There are two kinds of tea leaves cultivated mainly in Sarongge village. High quality one, Ganbung Tujuh and the best quality one, Pasir Sarongge. Pasir Sarongge has been cultivated since 116 years ago. And it has more than 11 children. Tea leaves cultivated in village are shipped to various factories and retailers. Tea leaves shipped are used as a part of the most famous tea brand in Indonesia which is Sariwanggi. You can buy the original tea leaves in Village.



Picture of teagarden and farmlands in village

2. Saung Sarongge

Saung sarongge is a beautiful tourism and community center. It is a place for the local community to practice traditional dance and martial arts, for farmer groups and cooperatives to meet, a place to host trainings, health checks and celebrations. It also serves as a first stop for guests visiting Sarongge. Guests are given a tour by the Saung Managers, who will also explain the packets and activities available.

③Activities

Next, we experienced program in village for visitors.

1. Homestay

We stayed at local house that accepts visitors for three days. There we could get much information such as folklore of village.



Picture of Saung Sarongge

2. Attraction

We also tried some activities of village such as flying fox, and agricultural experience.

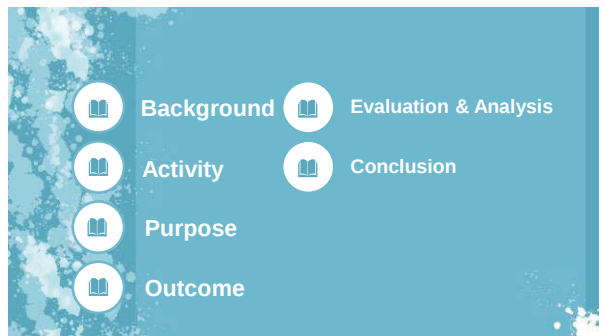
❑Conclusion

As making a guidebook, we needed to help for local people in various occupation because we didn't know what we should introduce about village. We noticed importance of making stakeholder in village.

We think there are many ways to conserve the forests. We tackled the problem "Conserve the Forest for 100 Years" by making a guidebook.

❑Acknowledgements

I would like to thank Pak Yoshi, Pak Ken, and Ibu Miki. I am also grateful to Ibu Irma and Pak Inama. Finally I would like to thank all of my Indonesian friends and local people in Sarongge for useful discussion.



01 / 08 / 2018

We Visited To MTS 1 Cianjur survey and Interview the Teacher's



02 / 08 / 2018

Make a mind mapping



Interview The Children Around Pasir Sarongge Elementary School



03 / 08 / 2018

Environmental Education At Pasir Sarongge Elementary School



Medal for the volunteers



Drawing a picture



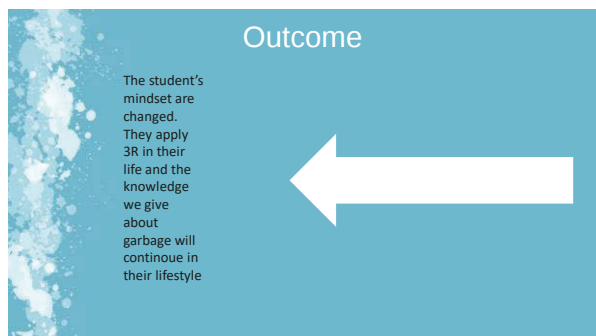
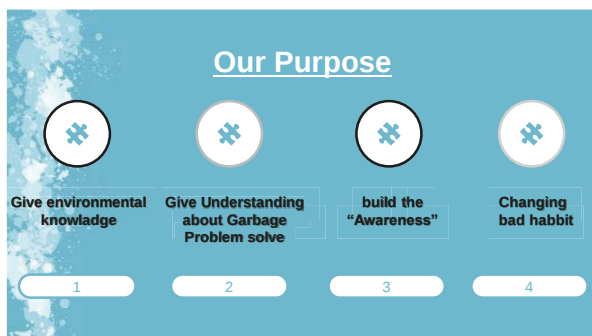
04 / 08 / 2018

Visited Saung Sarongge



Make mind mapping





Evaluation & Analysis

Good Point	
Point	Activity
Exciting	"Sampah Game" - Do Drama
Learn about garbage more deeply	Our Presentation
Output	- Make picture - Mini presentation
Easy to understand	- Do Drama - Show the video
Sharing opinion	Group discussion

BAD Point

Point	Activity
Prepare	• Process the make a lesson
Time Management	• Process the make a lesson
Changing student's	
Minimum support	• @ MTS
Focuss	• Our presentation @ SD

We could change student's mindset, but we couldn't enough teach about how to chage their life style. So, we need more ti me to teach about garbage cause the students just only unde rstand about the impact. Not how to saperate, save environ ment, and change mindset. Then the important thing is to f ocuss to student's life and need sustainability educations.

Analysis

Conclusion

Enviromental
education is
really important
to all people

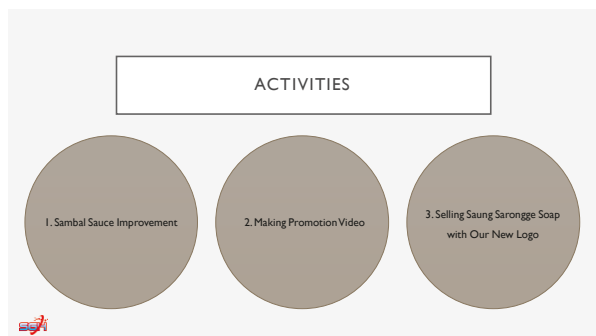
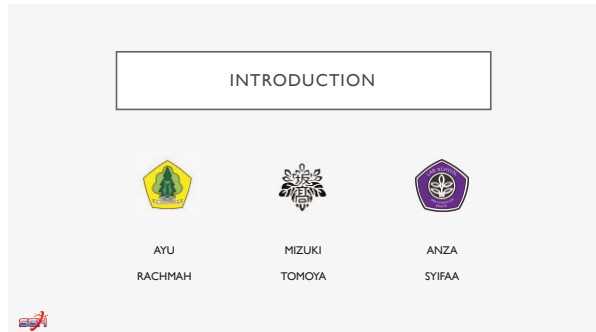
So important to teach children
from now about environment

Garbage problem that
happen on Sarongge Village
is because of habbit

Enviromental education
program is a program that
must to be continue

Thank you

Insert the title of your subtitle Here



We tried to do Sambal Testing and some questionnaires to research how to improve the Sambal's Quality.



We also prepared the questionnaire for those who want to test the Sambal.



2. Making Promotion Video

We made Promotion Video about Sarongge, so it'll make people more easier to reach more information about Sarongge.



The progress



3. Saung Sarongge Soap with Our New Logo.



We Sell the Saung Sarongge Soap at Resort PTN Cibodas.



We made a poster, so people can see the explanation about the soap and community development.



PURPOSE

1. Increase Community Income.
2. Promote Homeindustry Product.
3. Promote the eco-tourism.
4. Promote Bu Epon's Sambal.

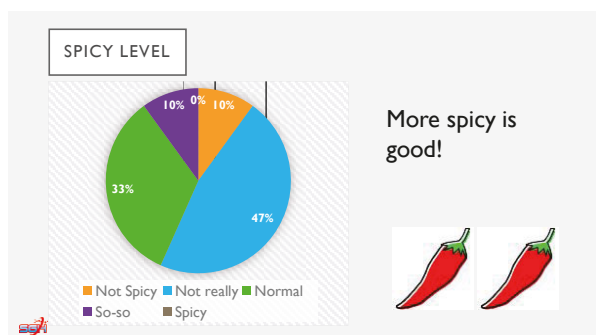
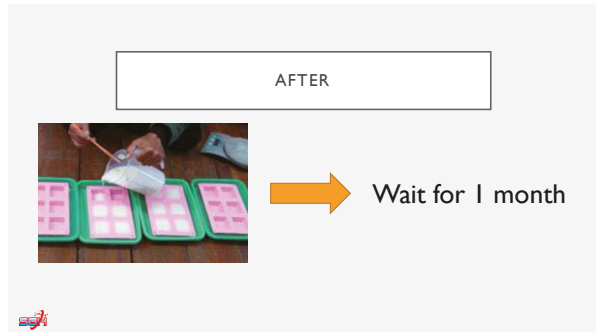
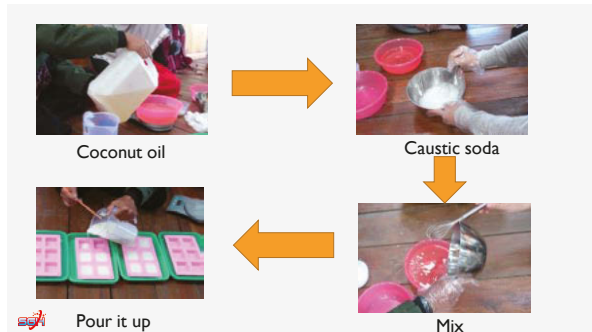


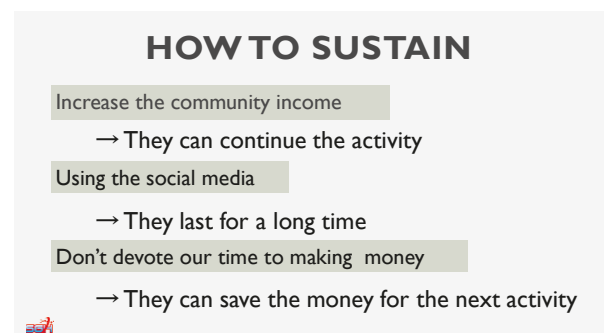
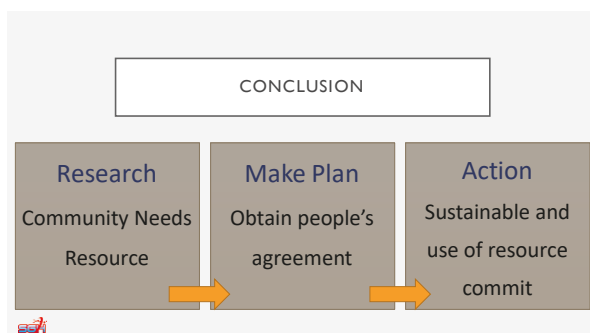
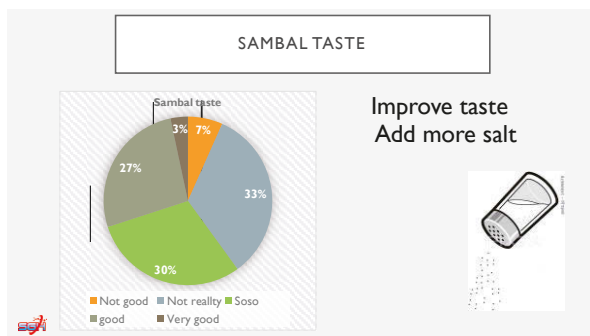
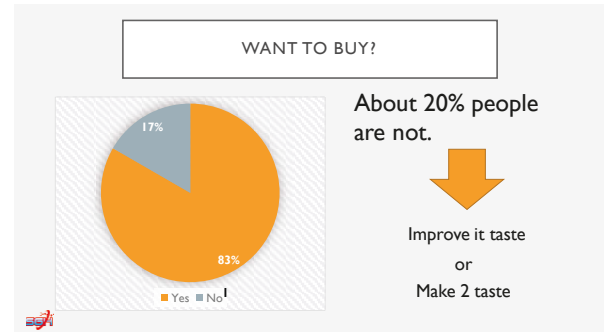
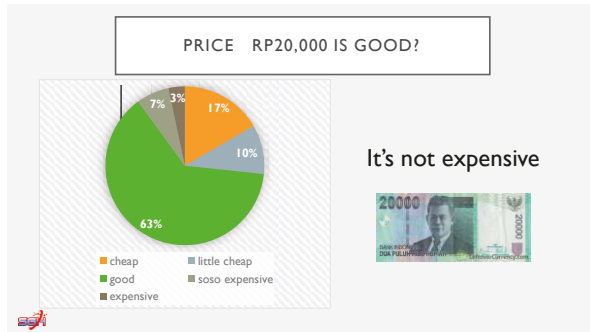
OUTCOME

Promote PKK's activity

- Saung Sarongge soap
- Sambal



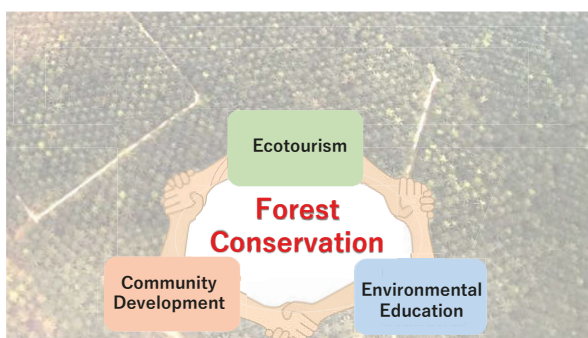
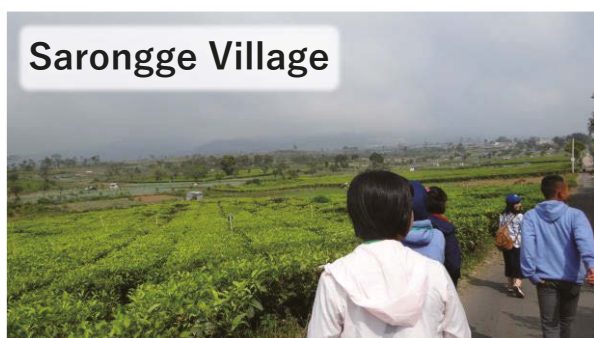




WE'LL SELLING THE SOAPS AGAIN AFTER
PRESENTATION, I HOPE EVERYONE BUY
OUR SOAP!

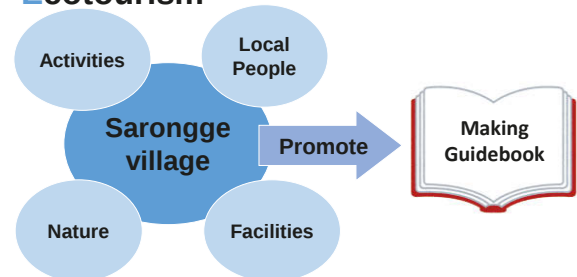


Ⅲ 第 7 回高校生国際 ESD シンポジウム 発表資料





Ecotourism



Conducting interview



Homestay activities



Visiting facilities



Action with PKK



A Group of Women in Sarongge Forest Conservation

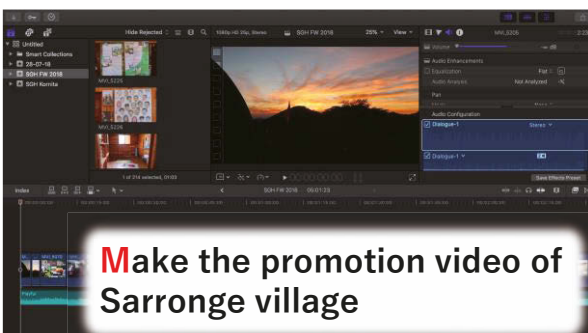


Tasting of Sambal Sause

Improvement of Organic Soaps

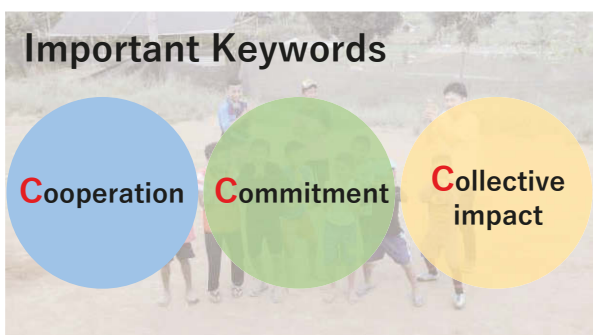


Selling the PKK's Soaps

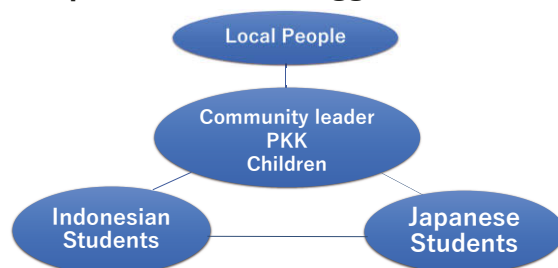


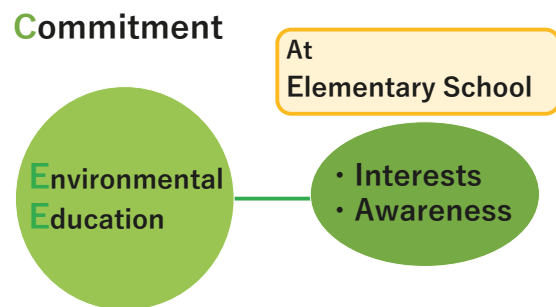
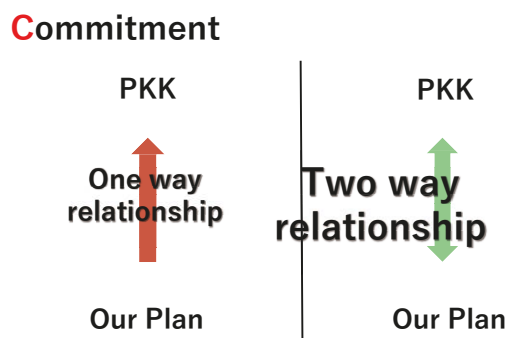
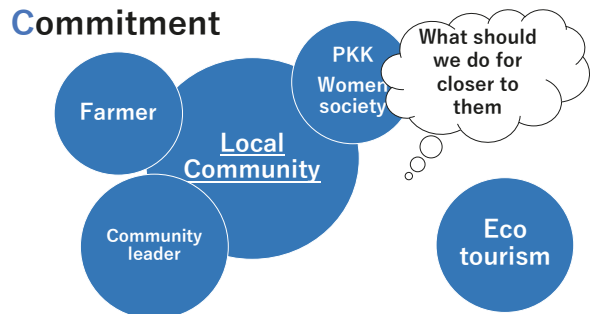
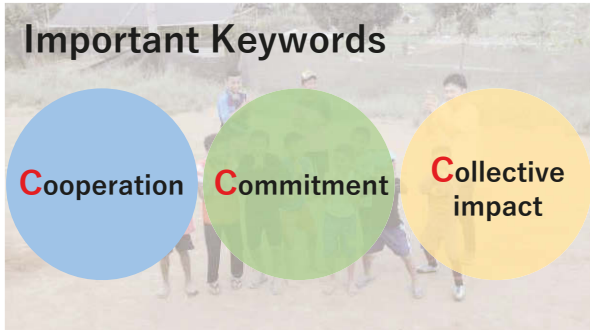
Make the promotion video of Sarronge village





Cooperation in Sarongge







Commitment
in local children

At
Junior High School

Environmental
Education

• Ownership

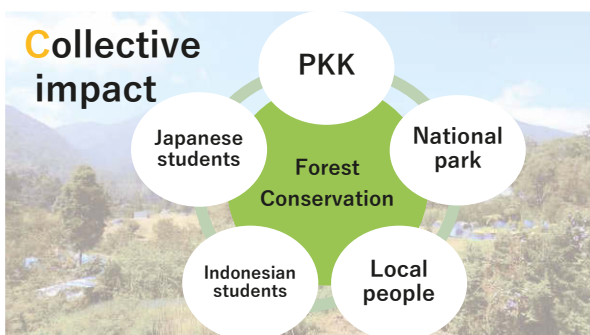


Important Keywords

Cooperation

Commitment

Collective
impact



2019/2/28



Environmental Education

For years to come

■Kornita High School:

Nina Anggia Putri, Muhammad Fauzan Muthian Muthian, Dinneke Ogaviana A

■Forestry Vocational High School:

Gladys Sylvia, Gilang Arga Kes Tazkia Fauzia, Raku Rahma

■Sakado High School:

Eri Furihata, Ichiro Takata, Minami Saito



►Summary

- We have conducted lessons about forest conservation and environmental issues in rural area located in West Jawa, Indonesia. We found the importance of changing people's habit to POI-SUTE at first.

►Purpose

- Giving knowledge of Environmental problems.
- Raising sense of ownership.
- The improvement of lifestyle about environment.
- Changing mind set, behavior modification.
- Thinking about cooperation with Indonesian students.

►Background

A biggest problem: Illegal logging

There are huge rain forests in Indonesia but 1.5 to 2.0 million ha of forests have been destroyed every year. Illegal logging is one of the big reasons of the situation.



Needs: To teach the damage of cutting forests for the environment.

►Activity

Step1

- Interview to teachers and students of local school.



Step2

- Survey at / around the School.



Step3

- Making Lesson Plan.
- Discussion.



Step4

- Trials in Primary / Middle Schools.



►Survey results of step1 & step2

A biggest problem: Inappropriate garbage disposal process.

There are a lot of garbage in local area especially plastic bags. Mainly, it has some problems that causes them.

1. Throwing the garbage
2. Burning the garbage included plastic
3. The plastic garbage in school isn't separated
4. To bring the lunchbox is childish so they buy food and make garbage
5. Tree was dying and water was contaminated because of the garbage



Needs:

There are a bad habit of unsuitable waste treatment.
To teach how to separate the garbage.
To tell the problem of plastic garbage for the environment.



►Process of the lesson

Basic knowledge



Activities and Experience

Think about the problems and how to solve it

Ownership



Reflection

Sustainable Environment

►Features



At an elementary school, we delivered a lesson for 4.5.6 grade students. We made children understand the problems easily.

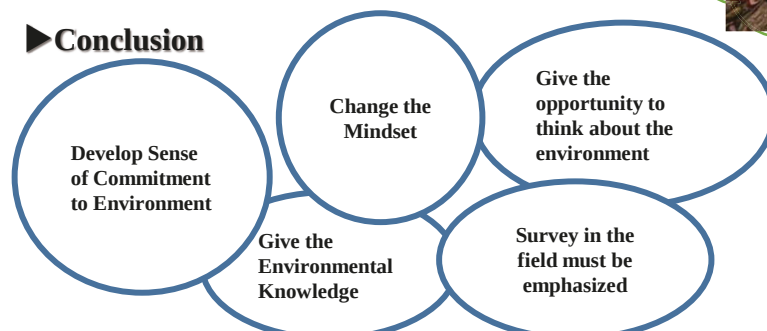
- EX) • A game to separate garbage.
• A drama about garbage and forest.
• Drawing a picture of own opinion through the lesson.

At a junior high school, we delivered a lesson for science club students. We made children raise awareness and ownership as global citizens.

E.g) • A group discussion to think about "How to solve the garbage problem"



►Conclusion



"Memorable Environmental Education"

→To future

"Common Language to concerned with Forest in Indonesia"

→Relationship

International Field Work/Eco Tourism Team: The Importance of Industry without Farming



Sakado high school:
Ogino Tatsuru/Moka Haruki

Kehetanan high school:
Hasnatul Fajri/Alifa Diah Ayu Sekar Kumala

Kornita high school:
Alfazri Sihaq/Satrio Aji Andito

The problem

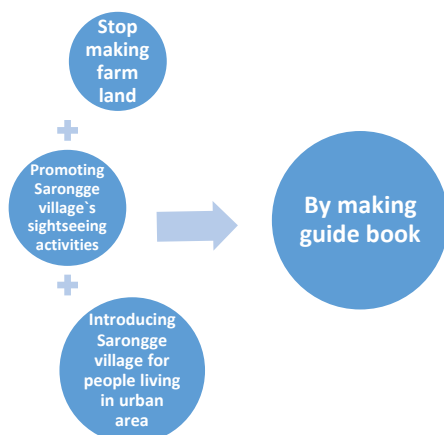
Sarongge village depends on farming to earn money. Villagers have to cut woods to make farm land. Our goal is to conserve Indonesian forest for 100 years, so that we think It is not sustainable way to make benefits.

Goals in this Field Work

We set up goal for two things:

- Promoting industries that do not depend on farming such as eco tour
- Making a guidebook of Sarongge village

Purpose

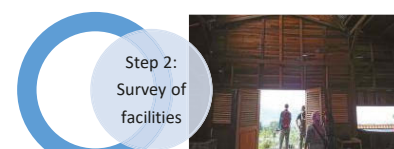


Activities

In Sarongge village, We conducted three activities in order to make a guidebook. The main activity is interview. We conducted interview on local people. By doing this, we could get local information such as where villager like to visit. The second action is visiting facilities. Based on this, we chose recommended point of each spot. Third activity is get experience of Sarongge village activities. For example, We stayed at local people's house for three days.



Step 1:
Interview



Step 2:
Survey of
facilities



Step 3:
Excursion

Survey

Through conducting interview, we could get a lot of information:

- Recommended spots of Sarongge village
- What villagers want tourists to know about village
- What do we have to do to increase the number of tourists?

Conclusion

We think there are three necessary components as making a guidebook.

- Attraction
- Local opinion
- People
- Experiences

These are necessary components for guidebook as well as every destinations should have. Sarongge village have potential for expansion of sightseeing industry.



Future prospective

Now we are making a guidebook, All progress of making guidebook will be finished in December.



International Fieldwork in Indonesia

Team Community Development



~ Commitment and Ability to Build a Better Local Community ~

Senior High School at Sakado University of Tsukuba: Mizuki Fukuda & Tomoya Takayanagi

with the cooperation with Lab School of SMA Kornita and Forestry Vocational High School, Ministry of Environment and Forestry

1. Background

It's necessary to increase the income of the people in village to accomplish our goals : forest conservation.
We decided to support a woman's association in Sarongge called PKK.

PKK

Woman's association in Sarongge

They get money by selling their hand-made products and they make contribution to forest conservation activities.



2. Purpose/Activity

Developing PKK's New Products

- Conduct tasting of Sambal Sause at National Park
- Canvass by using questionnaires

Attracting More Visitors

- Make promotion videos

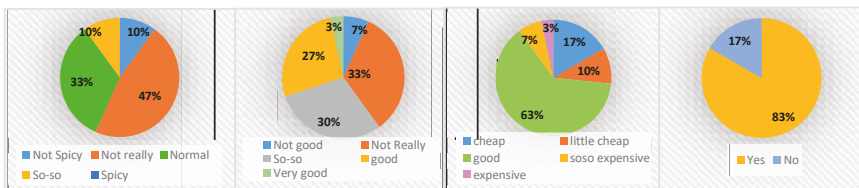
Increasing PKK's Income

- Make the logo of PKK's soaps and attach ingredients list
- Sell the soaps to visitors to the National Park

Forest conservation

3. Outcome/Analyses

Sambal tasting questionnaires



The Sambal needs more salt and spice than original products
The price setting is appropriately
Many people are satisfied with Sambal's container because it was made from plastic.
There are many people who want to buy the products so we should promote it to sell them.
We need to conduct questionnaires survey to the Sambal's customers.

Promotion video



- Editing a Sarongge's video to tell the Sarongge's good points.
- Share to the urban side from country side.
- Upload to YouTube.

Selling PKK's soaps

At National Park ... 26 soaps are sold / Rp93,000 benefit
At Our School Festival ... 48 soaps sold /Rp480,000 benefit

In total... 74 soaps are sold / Rp573,000 benefit



- We should have shown the customers the attractive points of the soaps and the benefits in detail.
- If we had conducted marketing before selling the soaps, we could have sold more products than we had expected.

4. Conclusion

To realize commitment action

We Japanese have many difficulties to participate to forest conservation of Indonesia.
As you try to solve some problem, it's important to make a plan and suggest it, however, translating the idea into the action is more important because we can verify if our plan commits to the local, and make stakeholders.
Then, how should we do to make an action which commit to the local?
At first, we need cooperation of local people. Next, it's necessary to know the community's needs. We who don't live in the community must to force our ideas on the local people. We must think about what their matter.

Pre-Study

- Collecting the Information of Community
- Analyzing the Needs
- Find the Characteristic of Resource

Make a Plan

- Making Agreement with Local People
- Relationship with the Final Goal :Forest Conservation

Action

- Thinking about the Sustainability
- Avoiding Concentration on certain group
- Having the Foresight

**IV 2018 年度
スーパーグローバルハイスクール
全国高校生フォーラム
発表資料**

Kawagoe Guide Map for Muslims

~What can we do to Improve the Tourism??~

University of Tsukuba Senior High School at Sakado
Millie Fujino

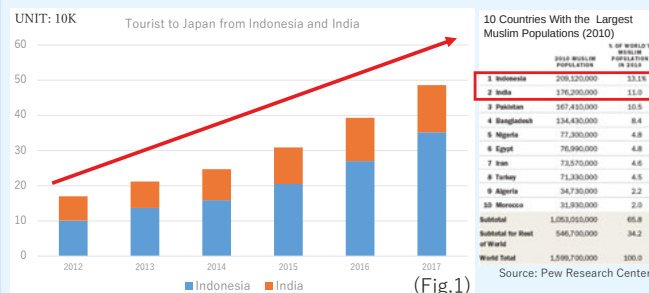
KEYWORDS: Muslim, Muslim-friendly, Halal, Tourism

ABSTRACT

The number of foreign visitors from Islamic countries to Japan is increasing. The focus of this research is to identify the challenges that Muslim visitors have encountered and suggest improvements for these problems. It was revealed that food choice and restaurant menus are some areas that they need help with. There are types of food that Muslims can't eat because of religious consideration and correspondence is not always easy for Muslims in Japan. Those kinds of problems have also been recognized by the Japan Tourism Agency.

BACKGROUND

It is a fact that the number of tourists to Japan is increasing. A significant number of these tourists are from Islamic countries. (Fig.1)



(This graph was formed on the basis of "J N T O 訪日旅行データハンドブック 2017" which was published by the Japan National Tourism Organization Established)

found that it was hard to order a dish that was suitable for their religious beliefs because there were no details about the ingredients.

started searching about their religious considerations
PROBLEM⇒ Japan was lacking that correspondence.

70% of the tourists have come expecting to enjoy Japanese dishes.

Tourism in Japan should be able to consider the cultural differences and practices of other countries to satisfy the needs of tourists who are coming to Japan.

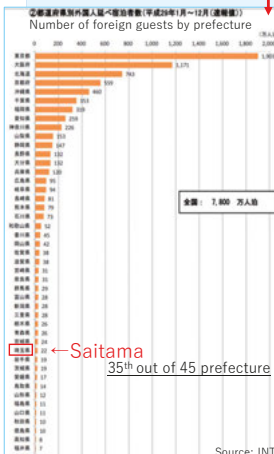
SOLUTION⇒

- ask Japanese restaurants to have pictograms on their menu
- make a guide map to have easy access to this information about restaurants

In any case, tourists who come to Japan will usually use the internet to get information. Although, if people search for Halal restaurants, there are only a few results. Nonetheless, based on my experience with my friends from Indonesia, they are still able to eat food in restaurants that are not officially Halal as long as there were dish options that did not include pork. It has a demand because if we were able to provide information about the dishes or restaurants that can not be easily searched online, it will make the stay of tourists in Japan much more convenient.

What is Kawagoe?

- filed of my guide map · city in Saitama
- many tourists who visit every year
- has tourist spots that are very popular
- still have room for improvement.

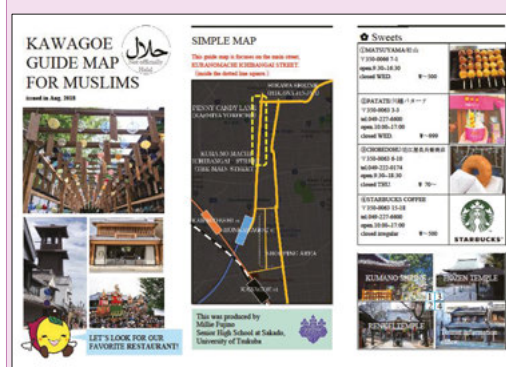


According to Halal Gourmet Japan, which is the biggest gourmet restaurant website for Muslims, it was revealed that in Kawagoe, there are **no official Halal restaurants**. However, there is one that is Muslim-friendly. The difference between these two is that Halal restaurants have permission from an official Halal corporation while the Muslim-friendly restaurants don't.

CONCLUSION

I found that it is important to respect individual differences and to have effective correspondence since all Muslims have their own ways of practicing. We have to remember that interpretation of teachings depends on sects, countries, regions, cultures and individuals. Any kind of religion could say the same. However, not all restaurants could have a perfect correspondence for them. But based on my experience and research, a simple scheme can help support better understanding of our differences. Also, not only restaurants but students and individuals should foster respect. So it is important for us to have correct knowledge and informed understanding about our neighbors.

ACTION



asked help from 30 restaurants to cooperate

15 of them happily agreed to help me

told the manager about my · research · problems · solution

asked them for help in putting a pictogram on their menu (which was also made by me)



Represents none pork.



Represents none alcohol

These actions can help improve Japanese Tourism because it is valuable for restaurants to have considerations for foreigners who want to enjoy Japanese dishes.

~Merits of making this guide map as a student~

- Found out that it is possible for us to help the Muslims to stay in Japan more comfortably
- Able to ask for help without putting pressure on the manager ⇒ there was positive collaboration
- Able to conduct a survey to the Muslim exchange student and got beneficial feedbacks

Questionnaire

What I asked about⇒ simplicity, merits, demerits, **total score**, whether this type of guide map is useful

Result⇒ average rate of 4.4 out of 5 at the total score

Also, since 10 out of 10 people answered that they want these guide maps to increase, and I have made improvements based on the suggestions, I can say that my guide map had become beneficial.

Through these actions, I was able to know that there are only few Halal restaurants in Japan and it is not easy to have a certification. But we could support the Muslims to live comfortably with these correspondence during their stay in Japan.

平成26年度指定 文部科学省スーパーグローバルハイスクール

**平成30年度
卒業研究論文・国際FW報告書
第7回高校生国際ESDシンポジウム発表資料集**

平成31年3月発行

筑波大学附属坂戸高等学校

〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田1-24-1

電話：049-281-1541

F A X：049-283-8017

本報告書に関する問い合わせ先：

国際教育推進委員会・SGH推進委員会

E-mail: fsakadokou@un.tsukuba.ac.jp

